

# A工区地質記載シート

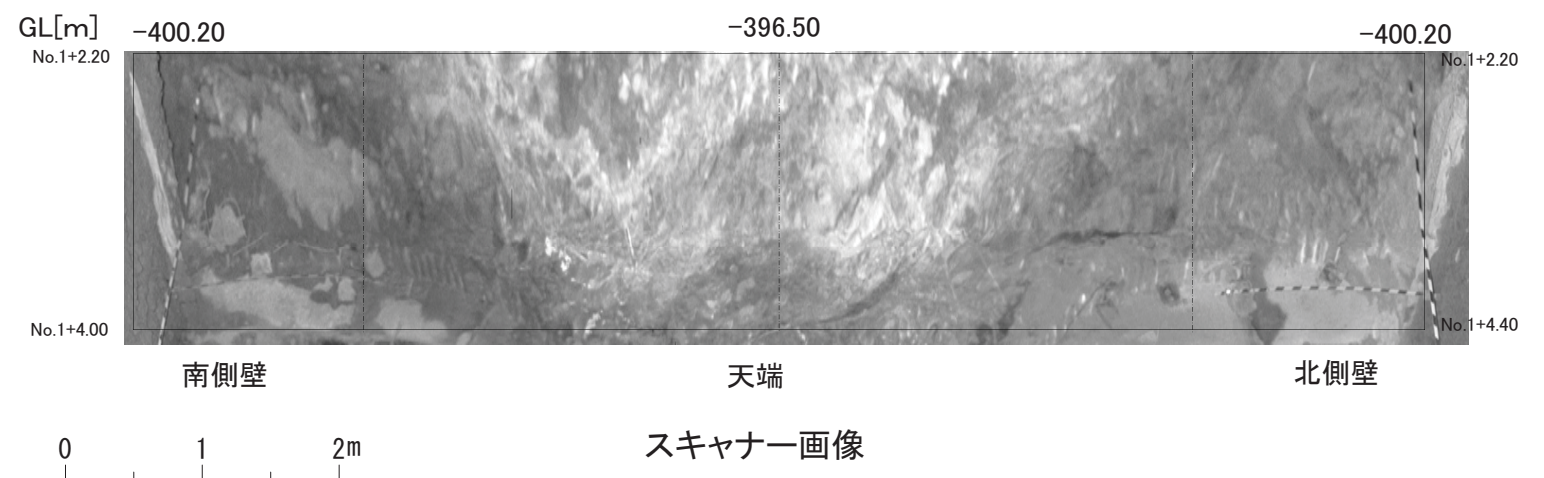
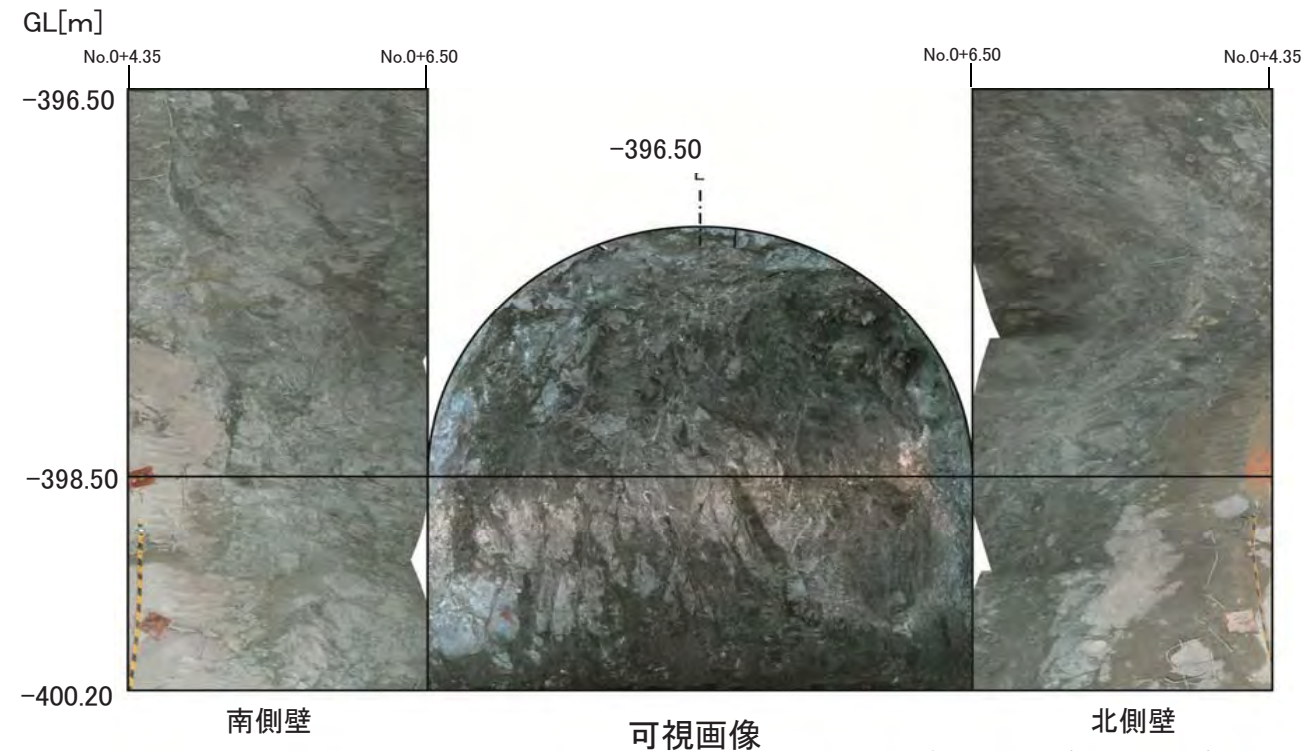
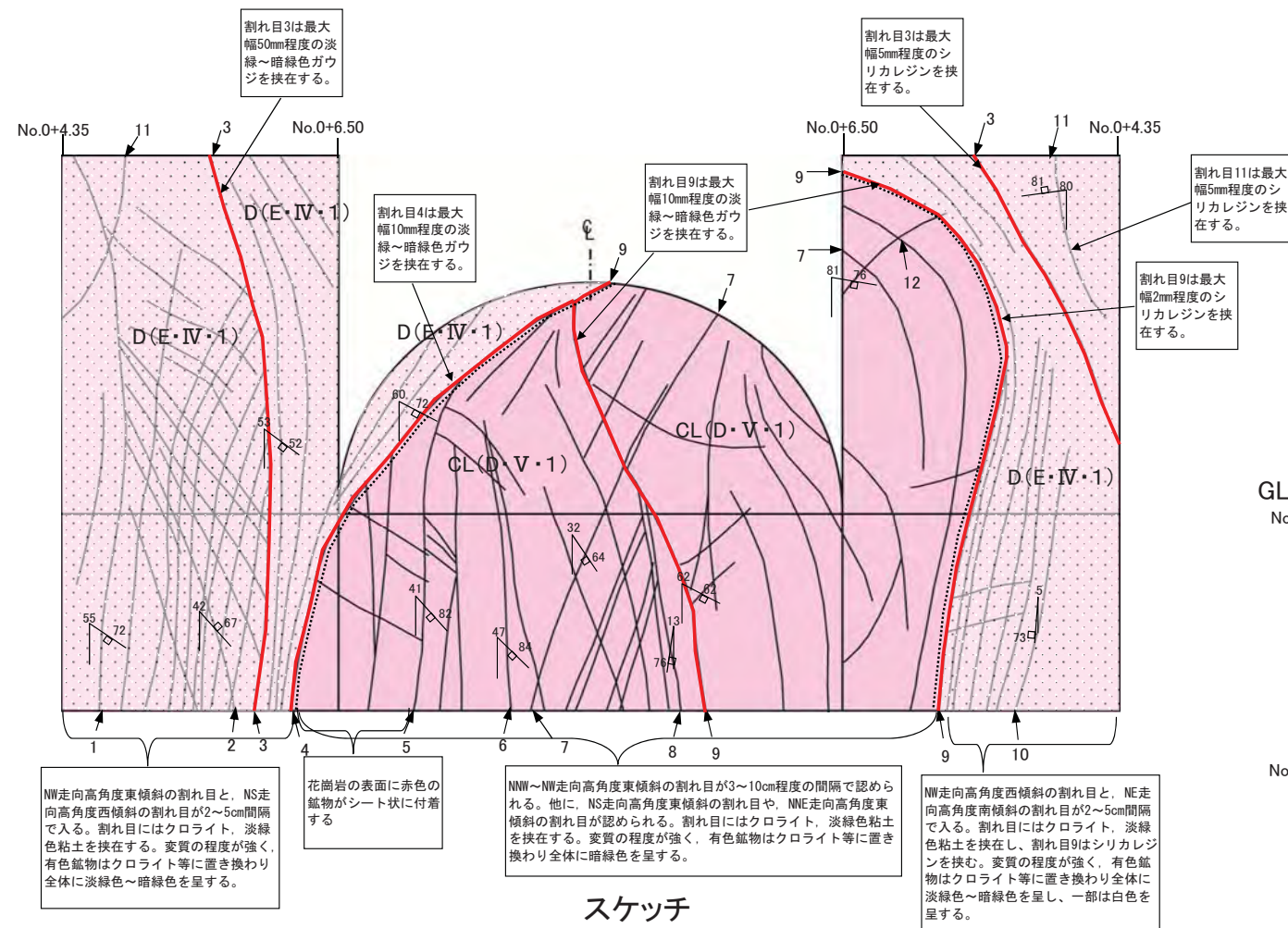
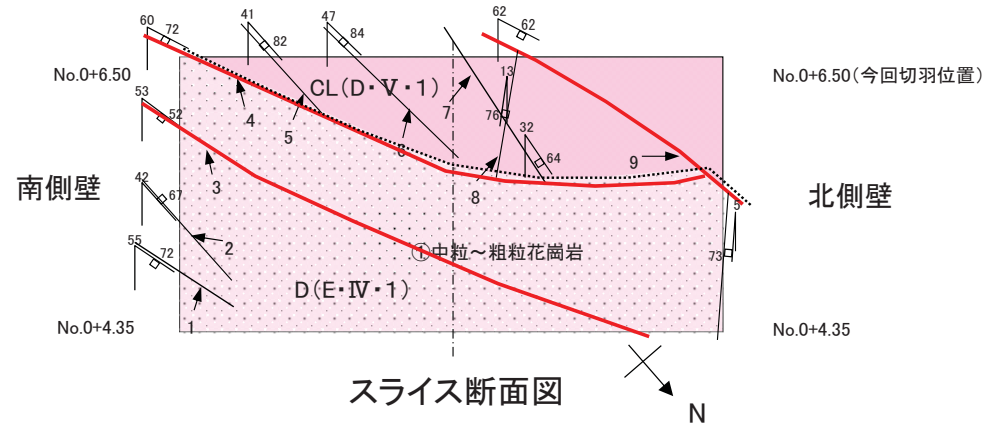
A3-請負-計測工(地質)-090914

シート番号	400m予備S1	日時	2009/9/14 11:00~12:30	位置・深度	400m予備ステージ1 G.L. -396.5 m~G.L. -400.2 m	観察・撮影者	
-------	----------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

凡例 花崗岩 断層 割れ目 岩級区分境界 割れ目の走向傾斜 湧水 強変質箇所



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. --396.5m~-394.5m CL/D
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡緑色、暗緑色)	RMR値	G.L. --394.5m~-400.2m CL/D
風化	α	岩石試料番号	-
変質	3~4	採水試料番号	-
湧水	全体に湿っぽい程度		

**特記事項**

当箇所は予備ステージの横坑であり、掘進方向はS41W方向である。横坑観察は切羽から2.2m離れた場所より目視観察を実施した。

岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。

花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は白濁し、黒雲母などの有色鉱物はクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に暗緑色から淡緑色を帯びている。特に、割れ目4と割れ目9から東側の強変質箇所では、有色鉱物が溶脱し全体に白色を帯び、ハンマーのビックで割れるほどに脆弱である。

割れ目はNW走向高角度のものが主体で、他にNS走向高角度とNE走向高角度の割れ目が認められる。

割れ目3, 4, 9は最大幅50mm程度の暗緑色~淡緑色のガウジを挟在し、鏡肌状であることから断層と判断した。

湧水は今回の切羽では認められなかった。

岩級区分は、割れ目4と割れ目9から北東側の花崗岩は割れ目間隔が概ね2~5cm程度で、変質による岩質の脆弱化によりハンマーの打撃で簡単に崩せる程度の硬さであることからD(E・VI・1)級。割れ目4と割れ目9から南西側の花崗岩は、割れ目間隔が概ね3~10cm程度で、ハンマーの打撃で鈍い音を立てる程度の硬さであることからCL(D・IV・1)級と評価した。



# A工区地質記載シート

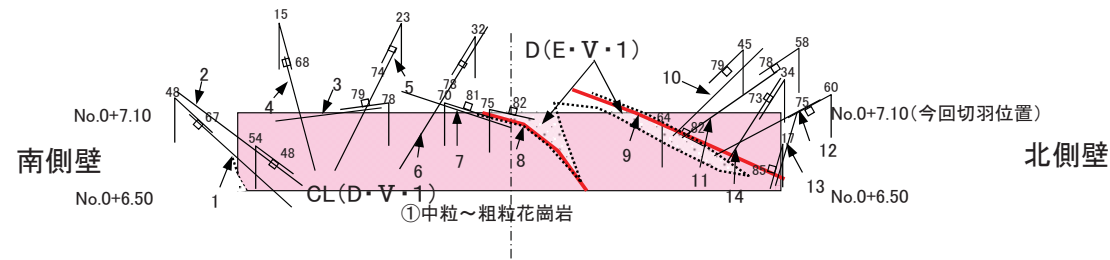
A3-請負-計測工(地質)-090915

シート番号	400m予備S2	日時	2009/9/15 15:45~17:00	位置・深度	400m予備ステージ G.L. -397.0 m~G.L. -400.2 m	観察・撮影者	
-------	----------	----	--------------------------	-------	---	--------	--

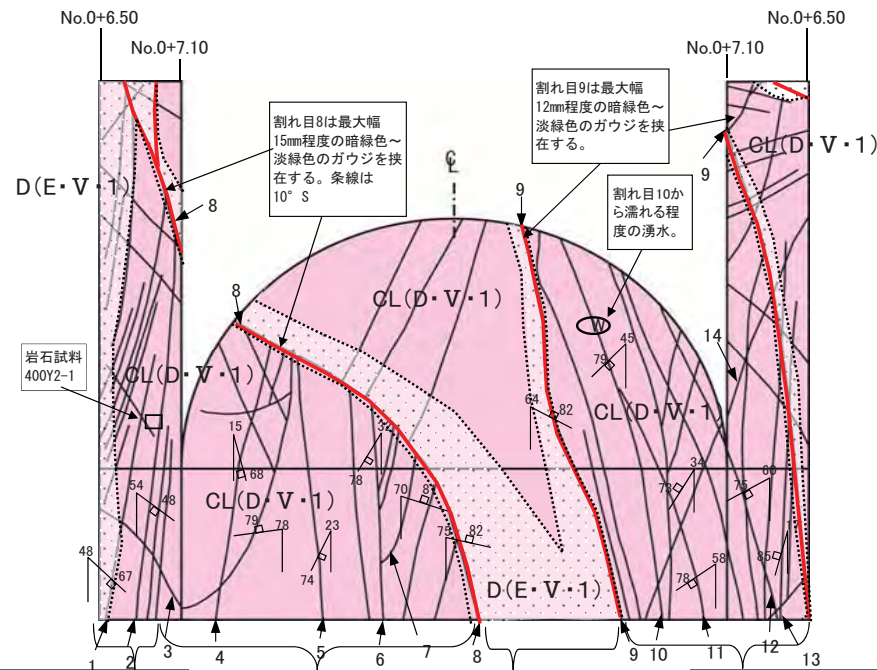
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

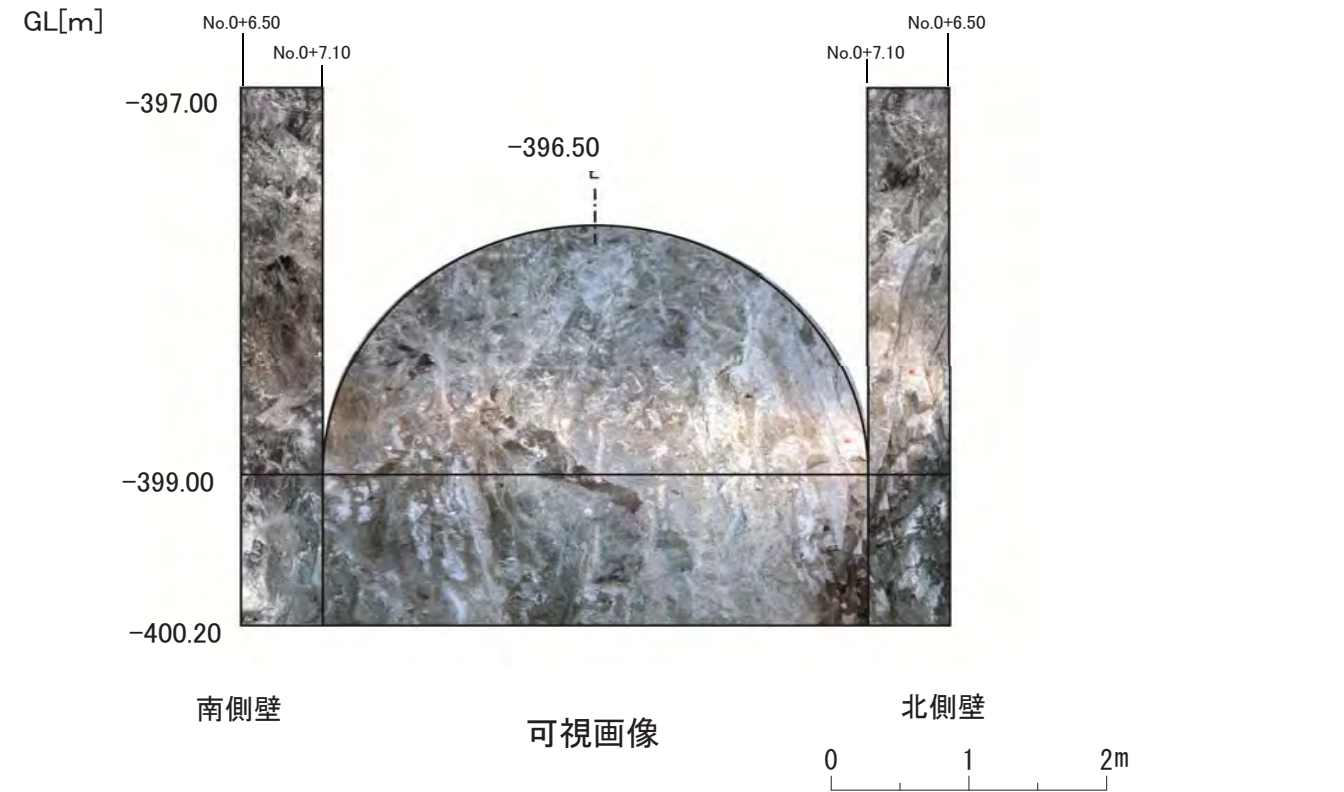
凡例  
 花崗岩  
 湧水  
 割れ目  
 岩級区分境界  
 割れ目の走向傾斜



スライス断面図



スケッチ



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -397m~-399m CL/D G.L. -399m~-400.2m CL/D
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (暗緑色、淡緑色)	RMR値	G.L. -397m~-399m 12 G.L. -399m~-400.2m 15
風化	α	岩石試料番号	M400Y2-1 (花崗岩)
変質	3~4	採水試料番号	無
湧水	濡れる程度		無

**特記事項**

当箇所は予備ステージの横坑であり、掘進方向はS41W方向である。横坑観察は切羽から0.6m離れた場所より目視観察を実施した。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は白濁し、黒雲母などの有色鉱物はクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に暗緑色から淡緑色を帯びている。特に、割れ目8と割れ目9の周辺の強変質箇所では、有色鉱物が溶脱し全体に白色を帯び、ハンマーのピックで削れるほどに脆弱である。割れ目はNW走向高角度とNE走向高角度が主体で、他にEW走向高角度の割れ目が認められる。割れ目8、9は最大幅15mm程度の暗緑色～淡緑色のガウジを挟在し、鏡肌状であることから断層と判断した。割れ目8では10° Sの赤線が認められた。湧水は割れ目10より濡れる程度の量が認められた。岩級区分は、切羽の大半の花崗岩は割れ目間隔が概ね2~10cm程度で、ハンマーの打撃で鈍い音を立てる程度の硬さであることからCL(D・V・1)級と評価した。また、割れ目8と割れ目9の花崗岩は、変質による岩質の脆弱化著しくハンマーの打撃で簡単に崩せる程度の硬さであることからD(E・V・1)級と評価した。



# A工区地質記載シート

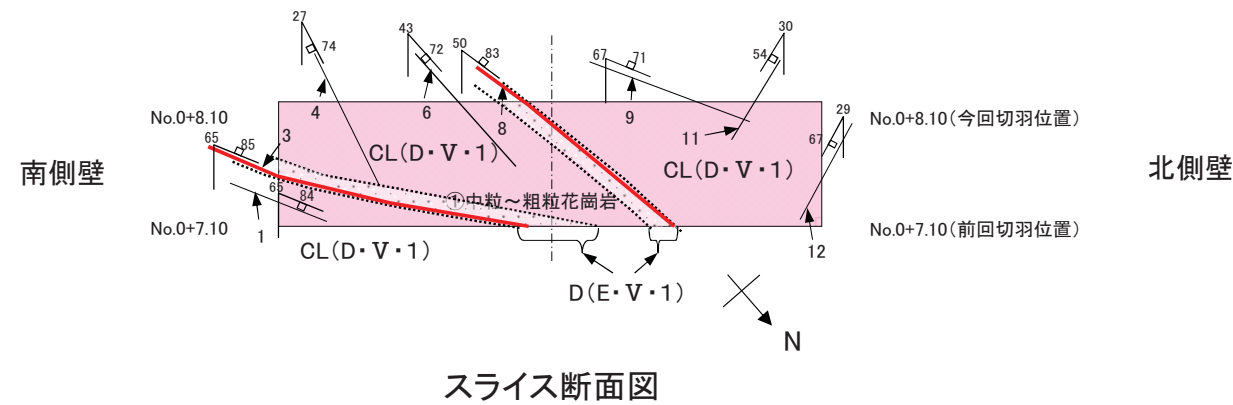
A3-請負-計測工(地質)-090917

シート番号	400m予備S3	日時	2009/9/17 17:00~18:00	位置・深度	400m予備ステージ3 G.L. -397.0 m~G.L. -400.2 m	観察・撮影者	
-------	----------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

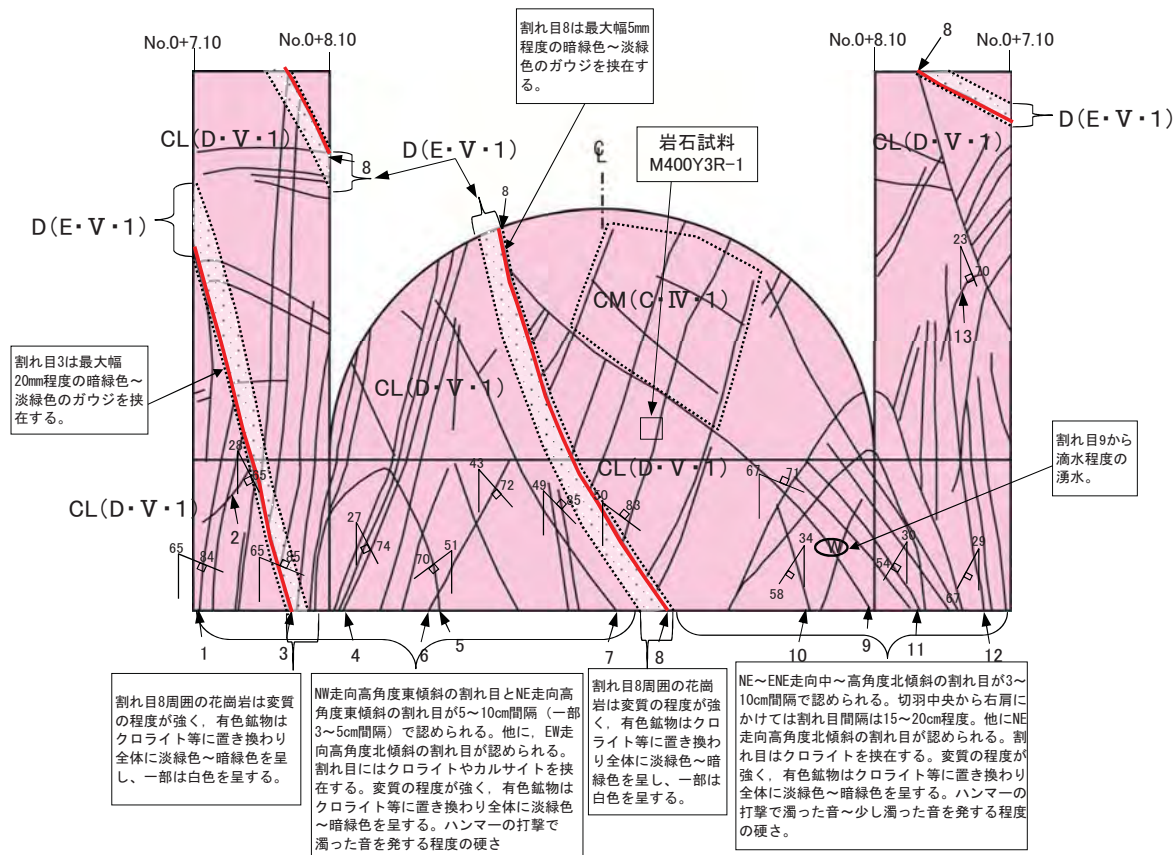
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

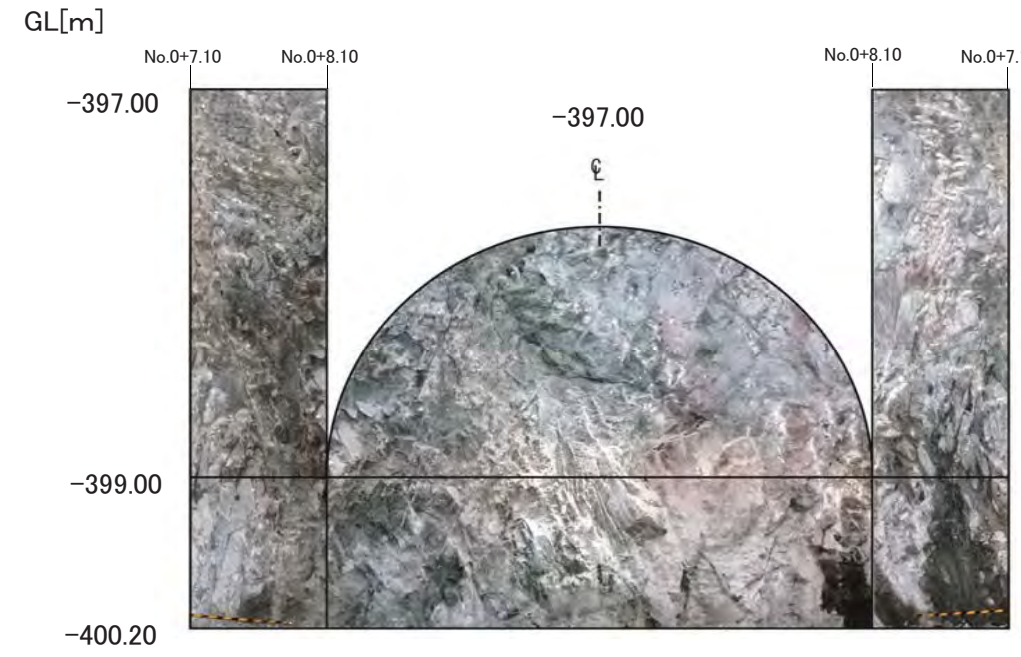
凡例	花崗岩	湧水	割れ目	岩級区分境界	割れ目の走向傾斜	強変質箇所
----	-----	----	-----	--------	----------	-------



スライス断面図



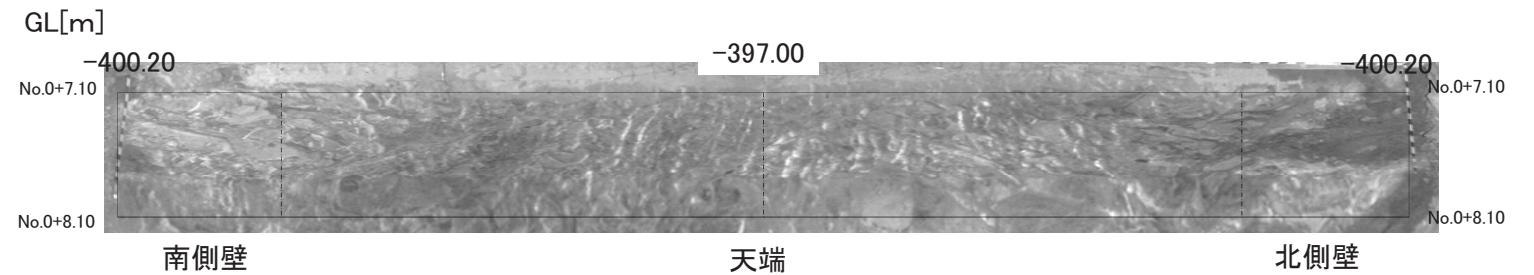
スケッチ



南側壁

可視画像

北側壁



南側壁

スキャナー画像

北側壁

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -397m~-399m G.L. -399m~-400.2m	CM/CL/D CL/D
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡緑色、暗緑色)	RMR値	G.L. -397m~-399m G.L. -399m~-400.2m	18 12
風化	α	岩石試料番号	M400Y3R-1 (花崗岩)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	滴水程度			

特記事項

当箇所は予備ステージの横坑であり、掘進方向はS41W方向である。横坑観察は切羽から1.0m離れた場所より目視観察を実施した。  
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。  
花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は白濁し、黒雲母などの有色鉱物はクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に暗緑色から淡緑色を帯びている。特に、割れ目3と割れ目8の周辺の強変質箇所では、有色鉱物が溶脱し全体に白色を帯び、ハンマーのピックで削れるほどに脆弱である。  
割れ目はNW走向高角度とNE走向高角度が主体で、他に一部にEW走向高角度の割れ目が認められる。  
割れ目3, 8は最大幅20mm程度の暗緑色～淡緑色のガウジを挟むことから断層と判断した。

湧水は割れ目9より滴水程度の量が認められた。  
岩級区分は、切羽の中央から右肩にかけては割れ目間隔が概ね15~20cm程度で、ハンマーの打撃で少しにぎった音を出す程度であることからCM(C・IV・1)級と評価した。他の切羽の大半の花崗岩は割れ目間隔が概ね3~10cm程度で、ハンマーの打撃で鈍い音を立てる程度の硬さであることからCL(D・IV~V・1)級と評価した。また、割れ目3と割れ目8の周辺の花崗岩は、変質による岩質の脆弱化によりハンマーの打撃で簡単に崩せる程度の硬さであることからD(E・V・1)級と評価した。



# A工区地質記載シート

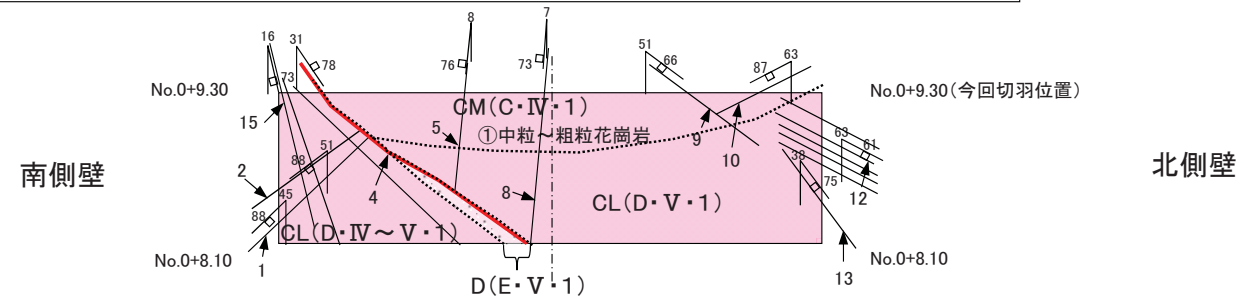
A3-請負-計測工(地質)-090921

シート番号	400m予備S4	日時	2009/9/21 17:30~18:30	位置・深度	400m予備ステージ4 G.L. -397.0 m~G.L. -400.2 m	観察・撮影者	
-------	----------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

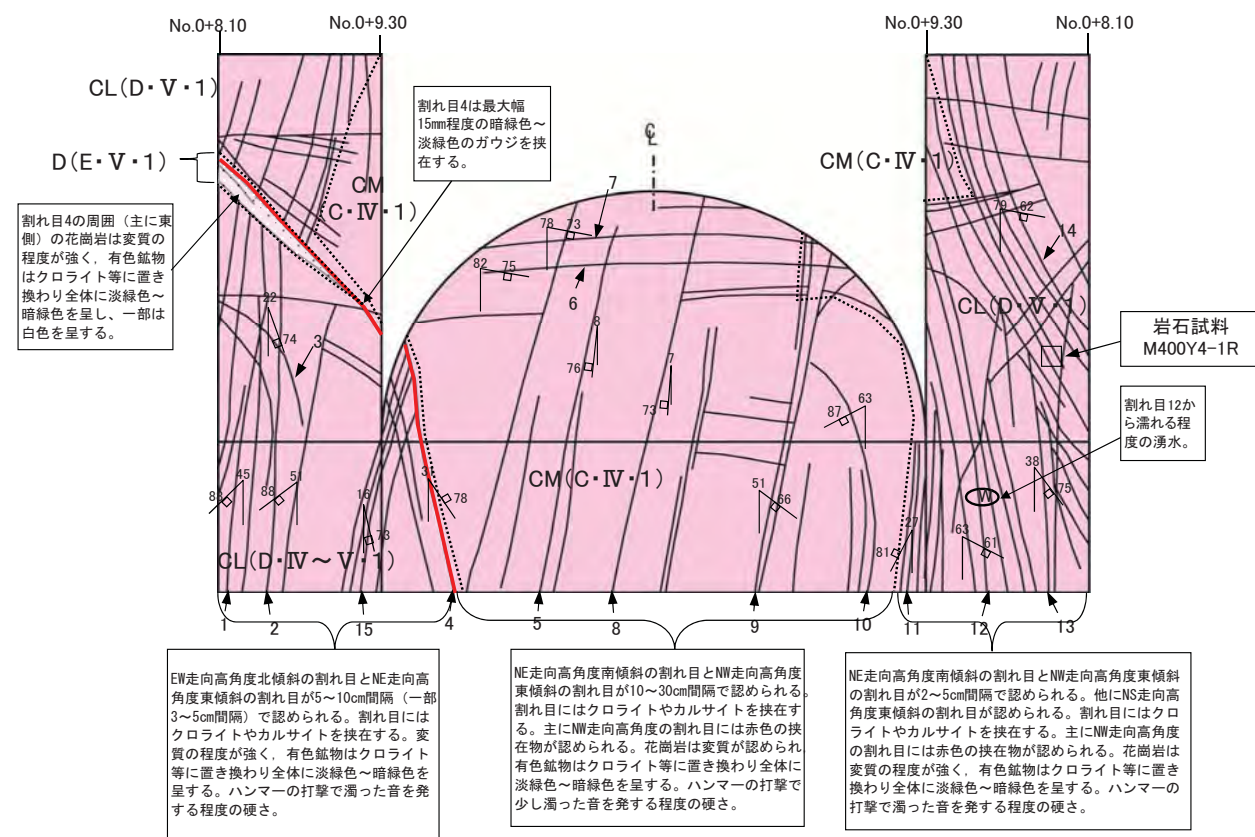
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

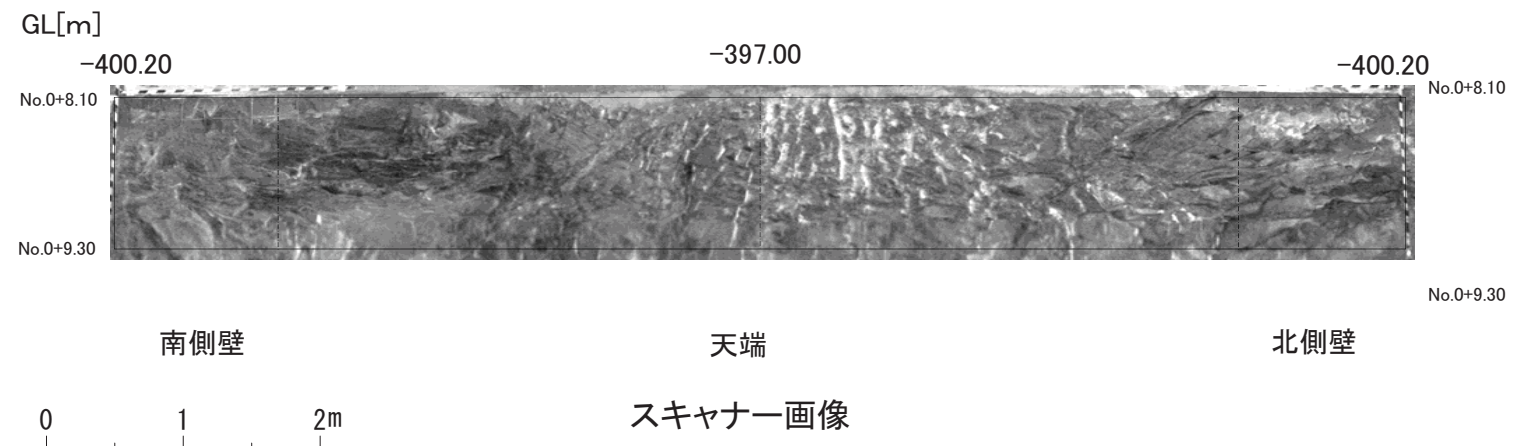
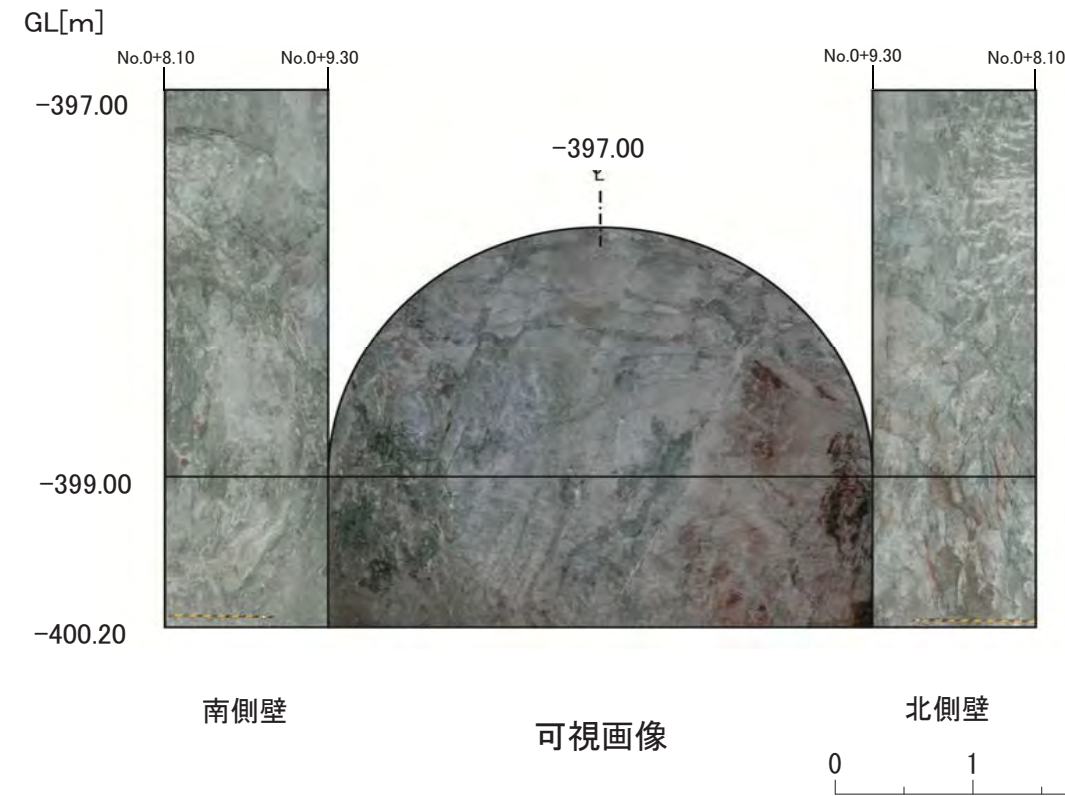
凡例	花崗岩	湧水	割れ目	岩級区分境界	割れ目の走向傾斜
----	-----	----	-----	--------	----------



スライス断面図



スケッチ



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -397m~-399m G.L. -399m~-400.2m	CM/CL/D CM/CL
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡緑色、暗緑色)	RMR値	G.L. -397m~-399m G.L. -399m~-400.2m	30 27
風化	α	岩石試料番号	M400Y4-1R (花崗岩)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	濡れる程度			

特記事項

当箇所は予備ステージの横坑であり、掘進方向はS41W方向である。横坑観察は切羽から1.2m離れた場所より目視観察を実施した。  
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。  
花崗岩は全体に変質を受け、長石は白濁し、黒雲母などの有色鉱物はクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に暗緑色から淡緑色を帯びている。特に割れ目4の周辺の一部の花崗岩(主に割れ目よりE側)は強変質しており、有色鉱物が溶脱し全体に白色を帯び、ハンマーのピックで削れるほどに脆弱である。  
割れ目はNW走向高角度とNE走向高角度が主体で、他に一部にEW走向高角度、NS走向高角度の割れ目が認められる。  
割れ目4は最大幅15mm程度の暗緑色～淡緑色のガウジを挟むことから断層と判断した。

湧水は割れ目12より濡れる程度の量が認められた。  
岩級区分は、鏡は割れ目間隔が概ね10~30cm程度で、ハンマーの打撃で少しにこった音を出す程度であることからCM(C・IV・1)級と評価した。他の切羽の大半の花崗岩は割れ目間隔が概ね2~10cm程度で、ハンマーの打撃で鈍い音を立てる程度の硬さであることからCL(D・IV~V・1)級と評価した。また、左肩の割れ目4周辺の花崗岩は、変質による岩質の脆弱化が著しくハンマーの打撃で簡単に崩せる程度の硬さであることからD(E・V・1)級と評価した。



# A工区地質記載シート

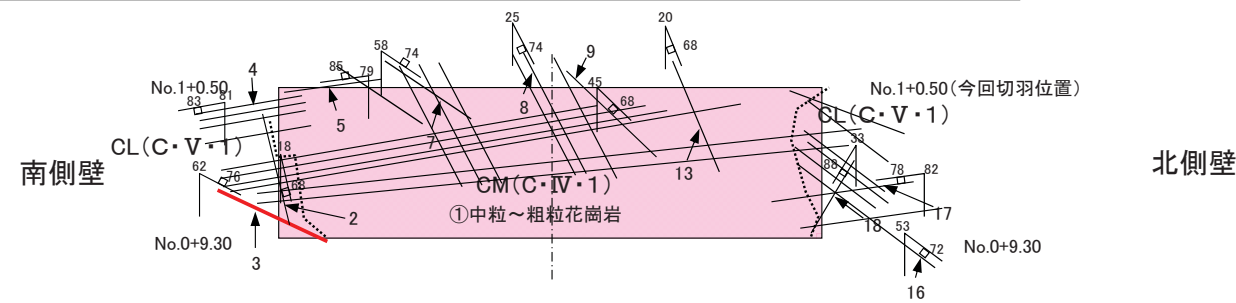
A3-請負-計測工(地質)-090922

シート番号	400m予備S5	日時	2009/9/22 12:30~13:30	位置・深度	400m予備ステージ5 G.L. -397.0 m~G.L. -400.2 m	観察・撮影者	
-------	----------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

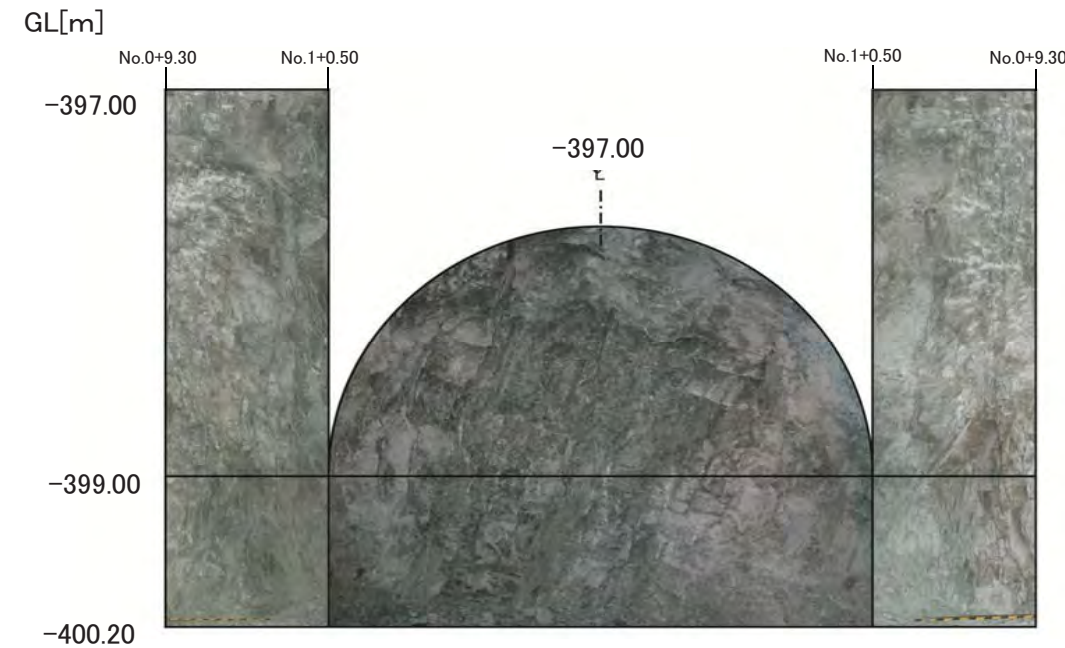
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

凡例	花崗岩	湧水	割れ目	岩級区分境界	割れ目の走向傾斜
----	-----	----	-----	--------	----------



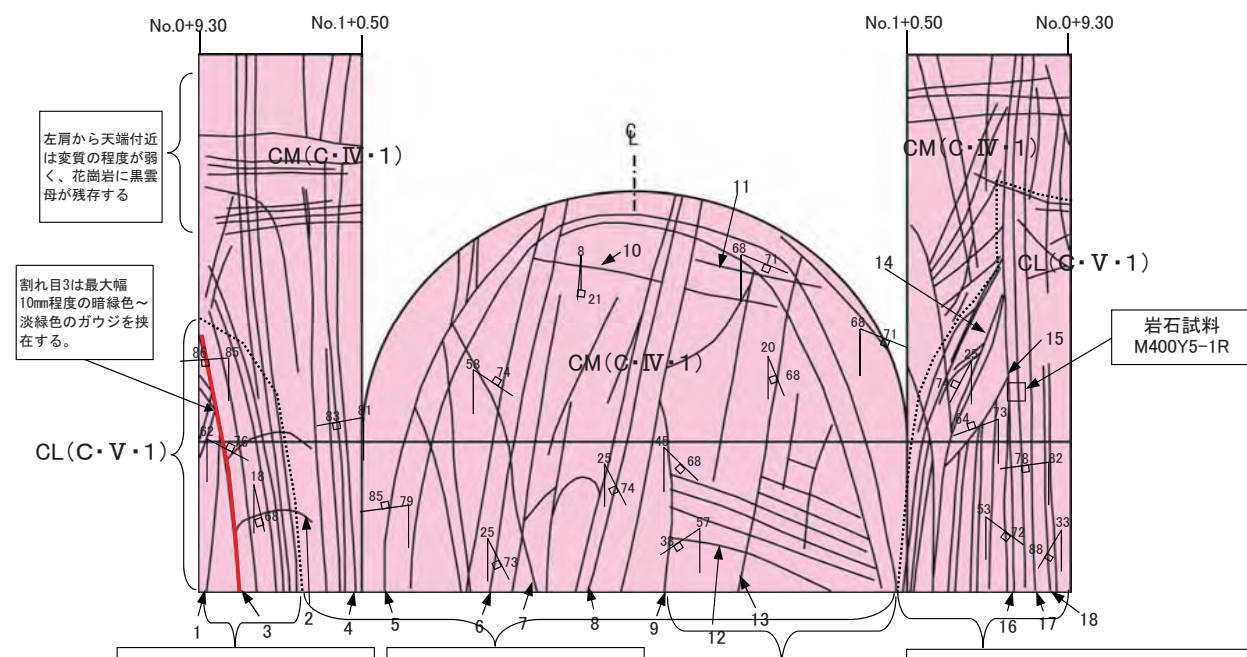
スライス断面図



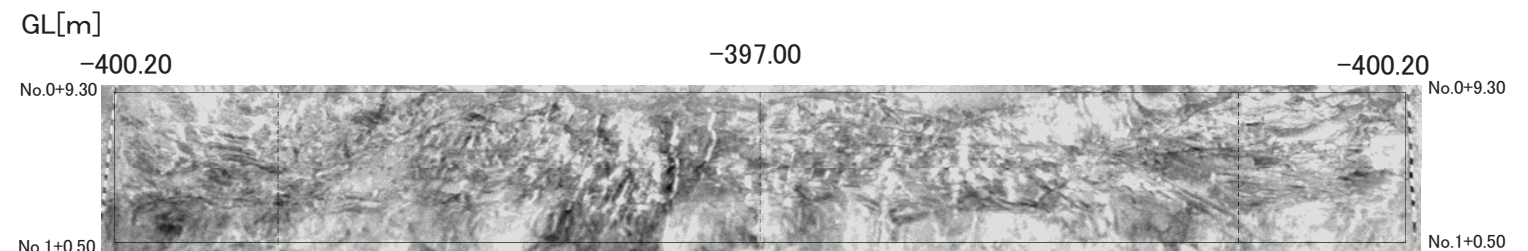
南側壁

可視画像

北側壁



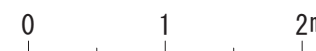
スケッチ



南側壁

天端

北側壁



スキャナー画像

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -397m~-399m CM/CL
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡緑色、暗緑色)	RMR値	G.L. -397m~-399m 35 G.L. -399m~-400.2m 35
風化	α	岩石試料番号	M400Y5-1R (花崗岩)
変質	3~4	採水試料番号	-
湧水	全体に湿る程度		

特記事項

当箇所は予備ステージの横坑であり、掘進方向はS41W方向である。横坑観察は切羽から1.2m離れた場所より目視観察を実施した。  
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。  
花崗岩は全体に変質を受け、長石は白濁し、黒雲母などの有色鉱物はクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に暗緑色から淡緑色を帯びている。  
割れ目はNW走向高角度とNNE~NE走向高角度が主体で、鏡面右側下部ではNW走向中角度北傾斜の割れ目が5~10cm程度の間隔で認められる。  
割れ目3は最大幅10mm程度の暗緑色~淡緑色のガウジを挟むことから断層と判断した。条線は低角度のものが認められた。(離れた位置からの観察であるため、正しい角度は不明)

湧水は認められなかった。  
岩級区分は、切羽の大半で割れ目間隔が概ね6~15cm程度で、ハンマーの打撃で少し濁った音を出す程度であることからCM(C・IV・1)級と評価した。北側壁と南側壁の一部の花崗岩は割れ目間隔が概ね2~5cm程度で、ハンマーの打撃で少し濁った音を立てる程度の硬さであることからCL(C・V・1)級と評価した。



# A工区地質記載シート

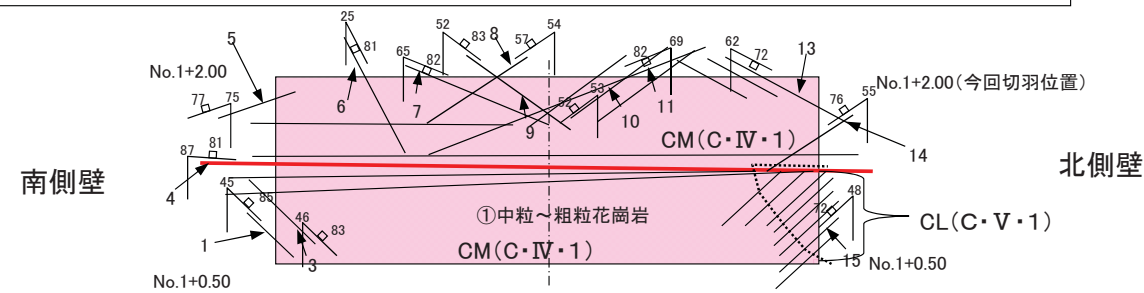
A3-請負-計測工(地質)-090923

シート番号	400m予備S6	日時	2009/9/23 6:10~7:10	位置・深度	400m予備ステージ6 G.L. -397.0 m~G.L. -400.2 m	観察・撮影者	
-------	----------	----	------------------------	-------	--	--------	--

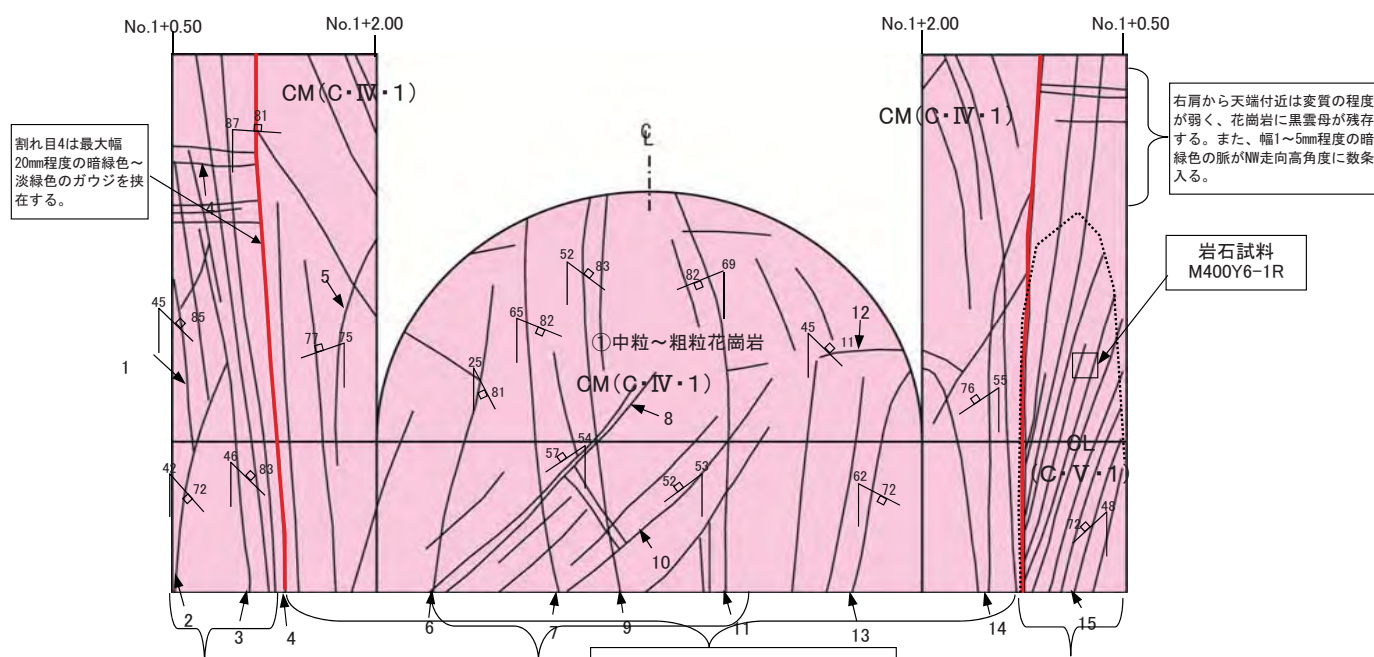
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

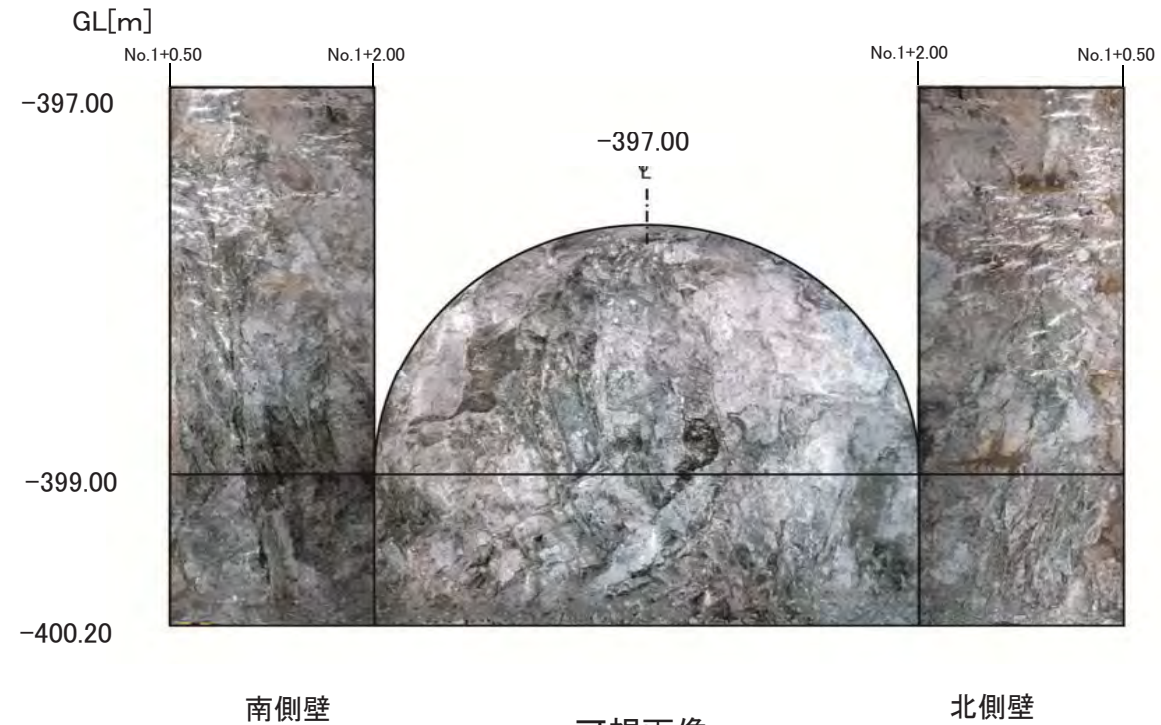
凡例 花崗岩 湧水 断層 割れ目 岩級区分境界 割れ目の走向傾斜



スライス断面図



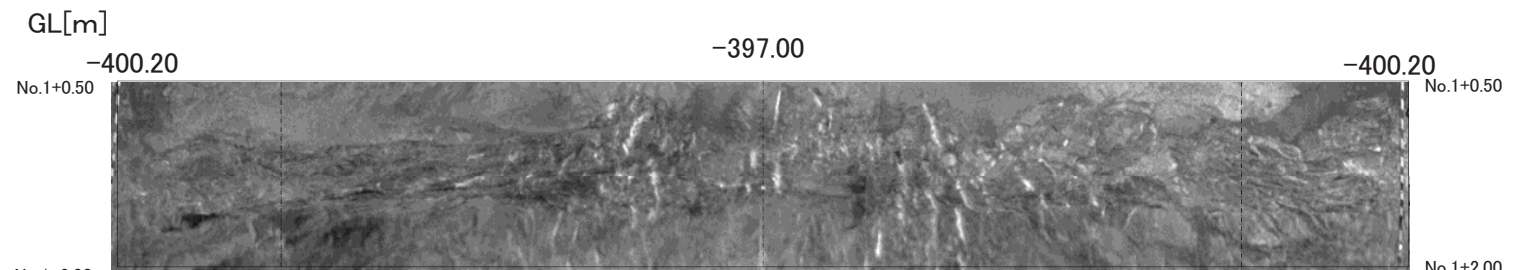
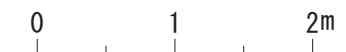
スケッチ



南側壁

可視画像

北側壁



南側壁

天端

北側壁



スキャナー画像

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -397m~-399m G.L. -399m~-400.2m	CM/CL CM/CL
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (暗緑色、淡緑色)	RMR値	G.L. -397m~-399m G.L. -399m~-400.2m	25 25
風化	α	岩石試料番号	M300Y6-1R (花崗岩)	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	全体に湿っぽい程度			

特記事項

当箇所は予備ステージの横坑であり、掘進方向はS41W方向である。横坑観察は切羽から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。  
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。  
花崗岩は全体に強い変質を受け、長石は白濁し黒雲母などの有色鉱物はクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に暗緑色から淡緑色を帯びている。右肩~天端付近では変質の程度が弱く、花崗岩に黒雲母が残存している。  
割れ目はNW走向高角度が主体で、鏡面中央~左側の下部にはEW走向中角度南傾斜の割れ目が6~10cm間隔で、北側壁の一部ではEW走向高角度南傾斜の割れ目が2~5cm程度の間隔で認められる。  
割れ目4は最大幅20mm程度の暗緑色~淡緑色のガウジを挟むことから断層と判断した。条線は低角度のものが認められた。(離れた位置からの観察であるため、正しい角度は不明)

湧水は認められなかった。  
岩級区分は、切羽の大半で割れ目間隔が概ね6~15cm程度で、ハンマーの打撃で少し濡った音を出す程度であることからCM(C-IV-1)級と評価した。北側壁一部の花崗岩は割れ目間隔が概ね2~5cm程度で、ハンマーの打撃で少し濡った音を立てる程度の硬さであることからCL(C-V-1)級と評価した。



# A工区地質記載シート

A3-請負-計測工(地質)-090923

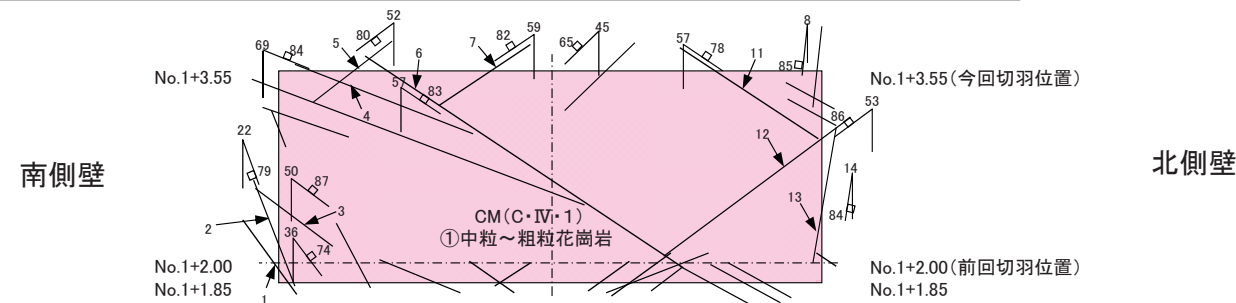
シート番号	400m予備S7	日時	2009/9/23 21:30~22:30	位置・深度	400m予備ステージ7 G.L. -397.0 m~G.L. -400.2 m	観察・撮影者	
-------	----------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

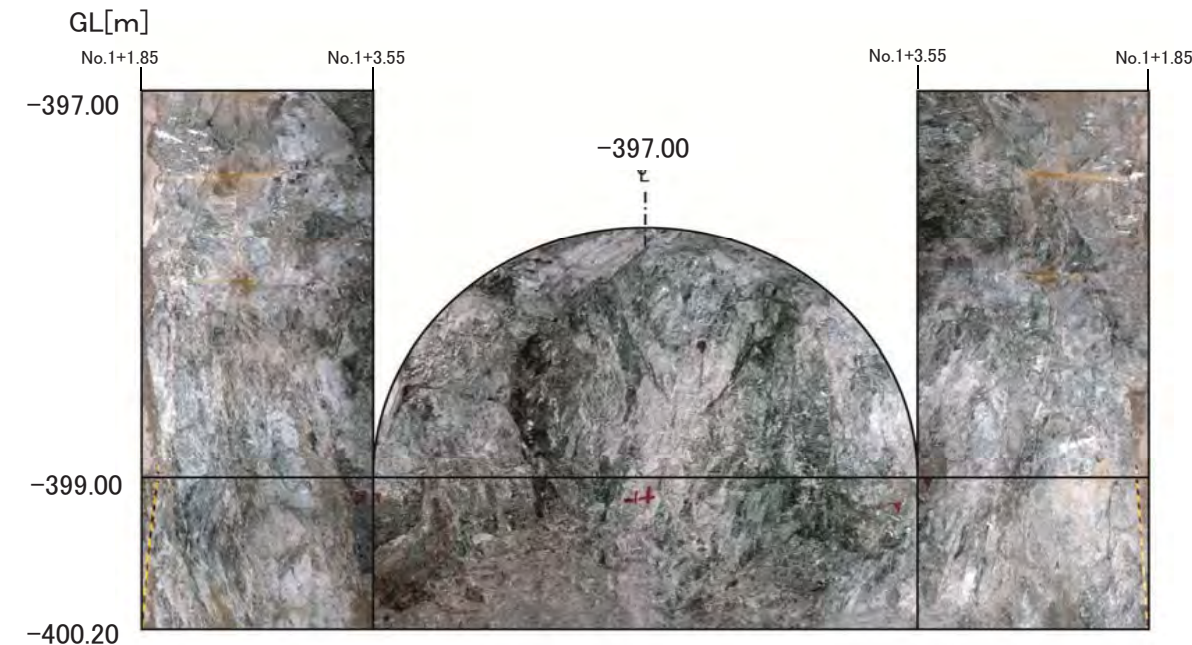
請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

凡例

	花崗岩		湧水		割れ目		岩級区分境界		割れ目の走向傾斜
--	-----	--	----	--	-----	--	--------	--	----------



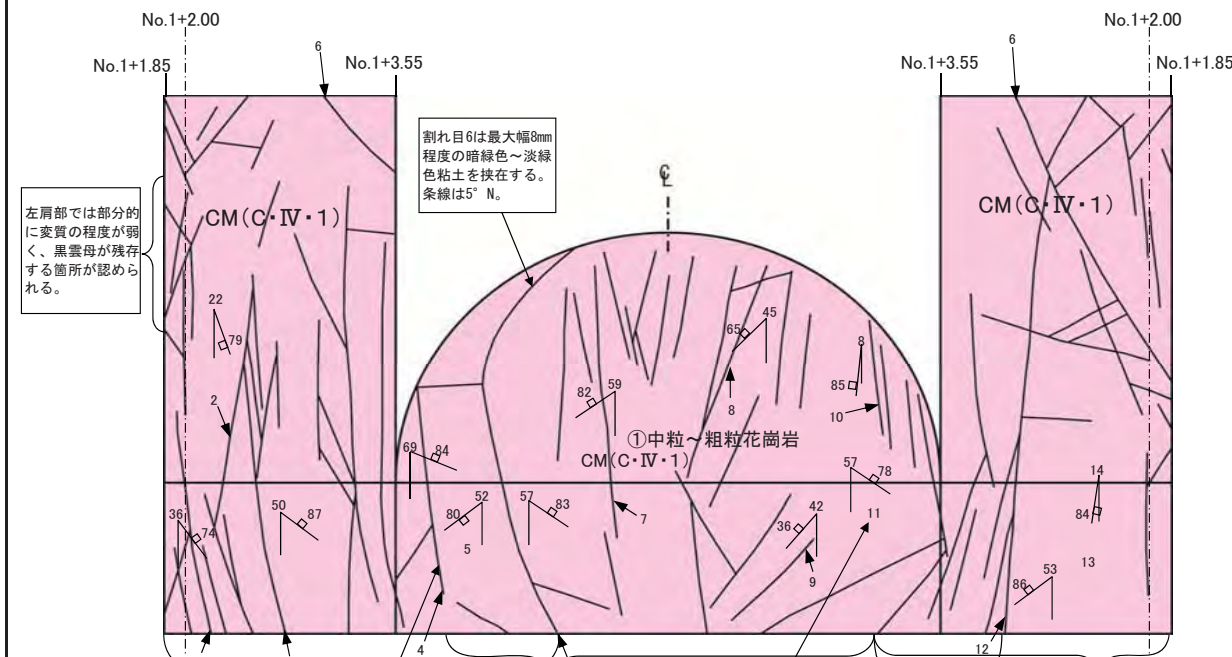
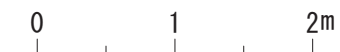
スライス断面図



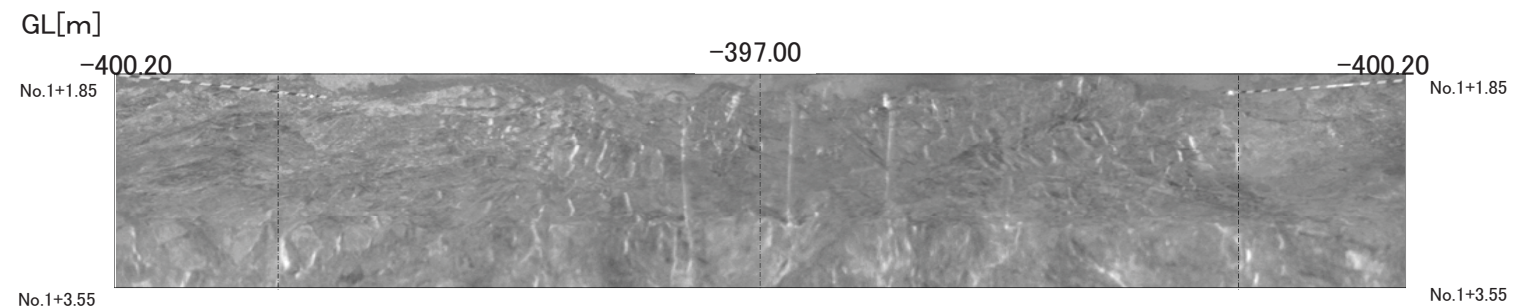
南側壁

可視画像

北側壁



スケッチ



南側壁

天端

北側壁



スキャナー画像

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -397m~-399m G.L. -399m~-400.2m	CM CM
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (暗緑色、淡緑色)	RMR値	G.L. -397m~-399m G.L. -399m~-400.2m	25 25
風化	α	岩石試料番号	-	
変質	3~4	採水試料番号	-	
湧水	全体に湿っぽい程度			

特記事項

当箇所は予備ステージの横坑であり、掘進方向はS41W方向である。横坑観察は切羽から1.7m離れた場所より目視観察を実施した。  
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。  
花崗岩は全体に変質を受け、長石は白濁し黒雲母などの有色鉱物はクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に暗緑色から淡緑色を帯びている。左側部付近では部分的に変質の程度が弱く、黒雲母が残存する箇所がある。  
割れ目はNW走向高角度が主体で、鏡面ではEW走向中～高角度の割れ目が6~15cm程度の間隔で、鏡面右側から北側壁ではNE走向高角度北傾斜の割れ目が6~10cm程度の間隔で認められる。

割れ目6は最大幅8mm程度の暗緑色～淡緑色粘土を挟み、条線は5°Nであった。また、割れ目4および11では挟在物のクロライト上にそれぞれ6°N、5°Nの線構造が認められた。(ただし、離れた位置からの観察であるため、正確な角度は不明。)  
湧水は認められなかった。  
岩級区分は、切羽の大半で割れ目間隔が概ね6~15cm程度で、ハンマーの打撃で少し濡った音を出す程度であることからCM(C・IV・1)級と評価した。



# A工区地質記載シート

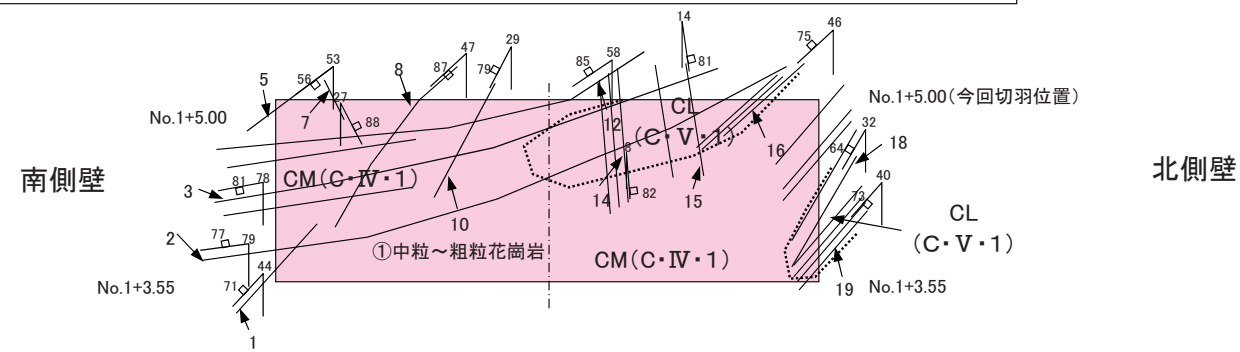
A3-請負-計測工(地質)-090925

シート番号	400m予備S8	日時	2009/9/25 10:30~11:30	位置・深度	400m予備ステージ8 G.L. -397.0 m~G.L. -400.2 m	観察・撮影者	
-------	----------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

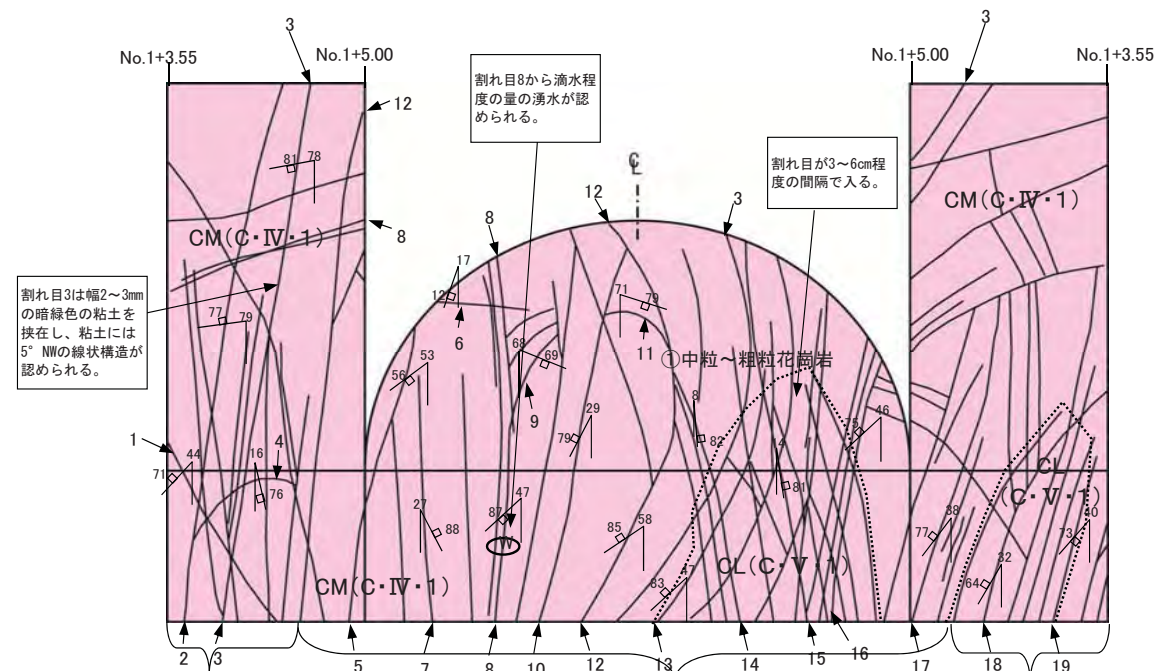
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

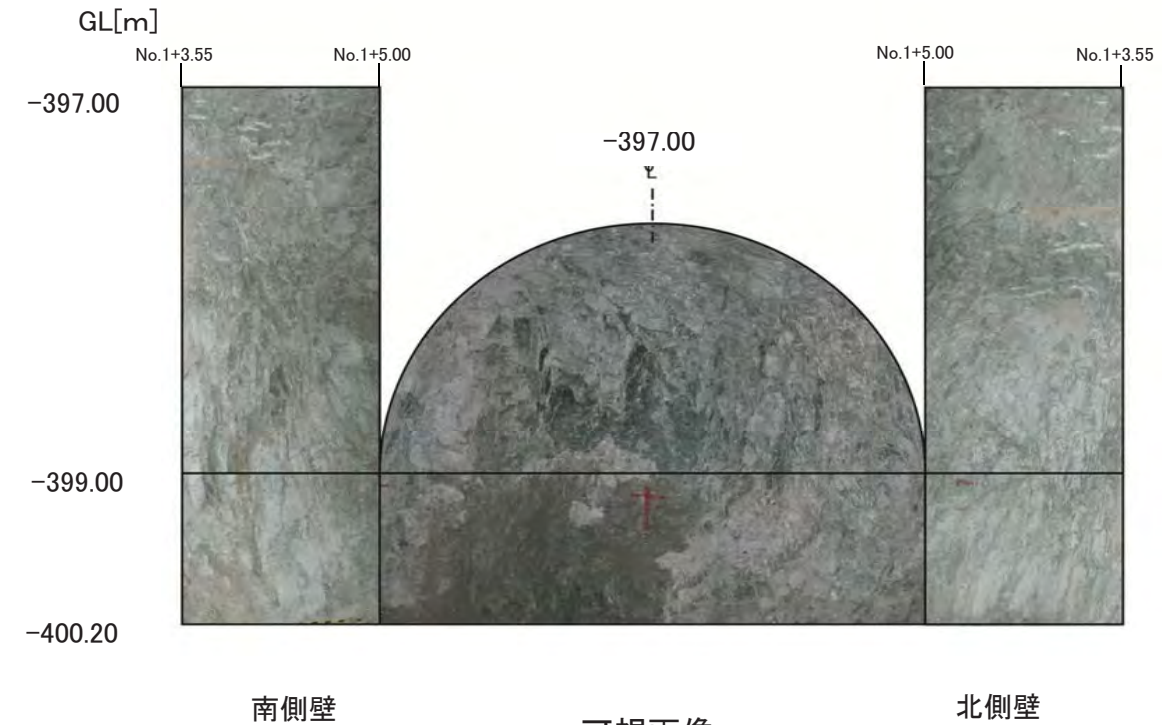
凡例	花崗岩	湧水	割れ目	岩級区分境界	割れ目の走向傾斜
----	-----	----	-----	--------	----------



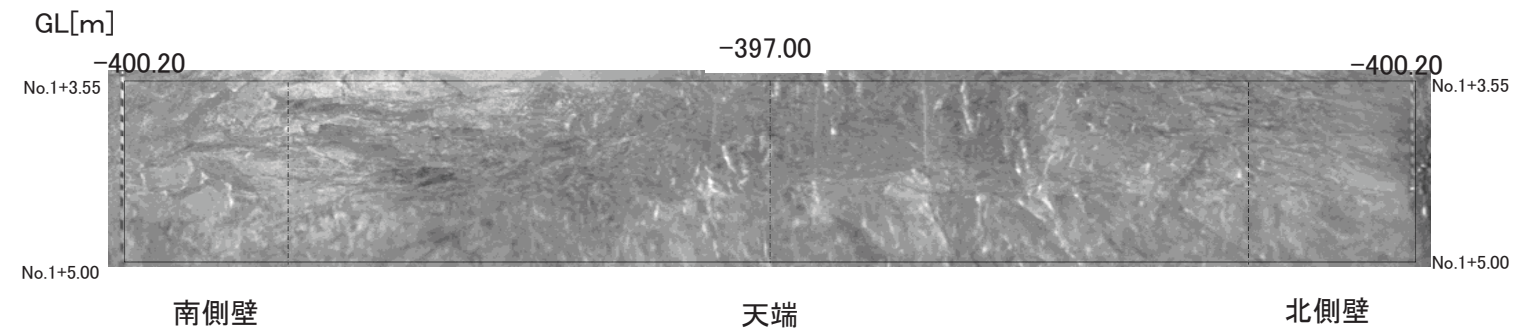
スライス断面図



スケッチ



可視画像



スキャナー画像

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -397m~-399m CM/CL G.L. -399m~-400.2m CM/CL
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (暗緑色、淡緑色)	RMR値	G.L. -397m~-399m 35 G.L. -399m~-400.2m 29
風化	α	岩石試料番号	M400Y8-1R (花崗岩)
変質	3~4	採水試料番号	-
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所は予備ステージの横坑であり、掘進方向はS41W方向である。横坑観察は切羽から1.45m離れた場所より目視観察を実施した。  
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。  
花崗岩は全体に変質を受け、長石は白濁し黒雲母などの有色鉱物はクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に暗緑色から淡緑色を帯びている。南側壁では変質の程度が弱く黒雲母は残存し、長石は橙色を呈する。  
割れ目はEW~ENE走向高角度とNE走向高角度が主体で、南側壁にはNW走向高角度の割れ目が6~10cm間隔で認められる。  
割れ目はクロライトとカルサイトを挟み、割れ目3は幅2~3mmの暗緑色の粘土を挟み、粘土には5°NWの線状構造が認められる。

湧水は割れ目8から滴水程度の量が認められた。  
岩級区分は、切羽の大半で割れ目間隔が概ね6~15cm程度で、ハンマーの打撃で少し濡った音を出す程度であることからCM(C・IV・1)級と評価した。北側壁一部と鏡面中央下部から右側下部の花崗岩は、割れ目間隔が概ね3~6cm程度で、ハンマーの打撃で少し濡った音を立てる程度の硬さであることからCL(C・V・1)級と評価した。



# A工区地質記載シート

A3-請負-計測工(地質)-090926

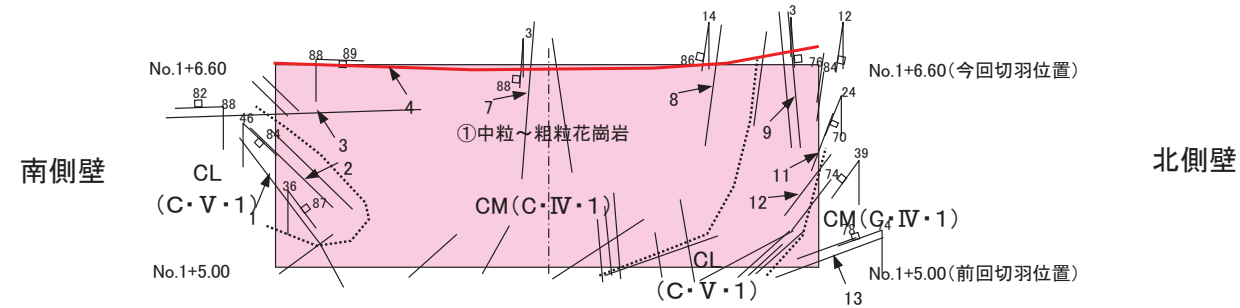
シート番号	400m予備S9	日時	2009/9/26 5:00~6:00	位置・深度	400m予備ステージ G.L. -397.0 m~G.L. -400.2 m	観察・撮影者	
-------	----------	----	------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

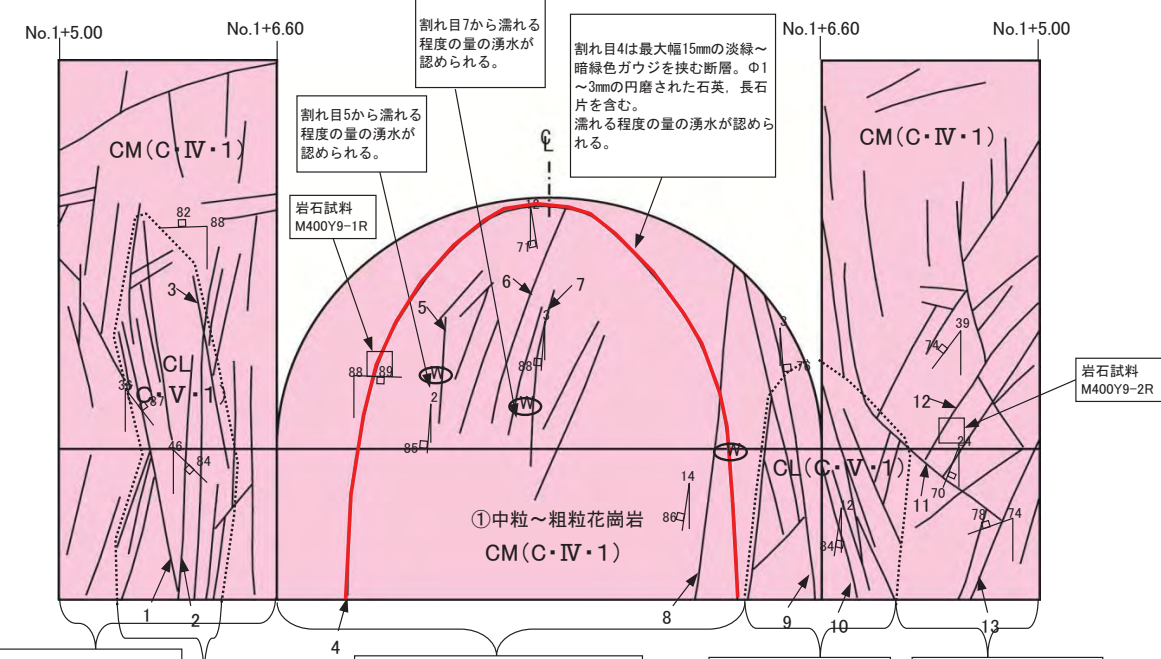
請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

凡例  

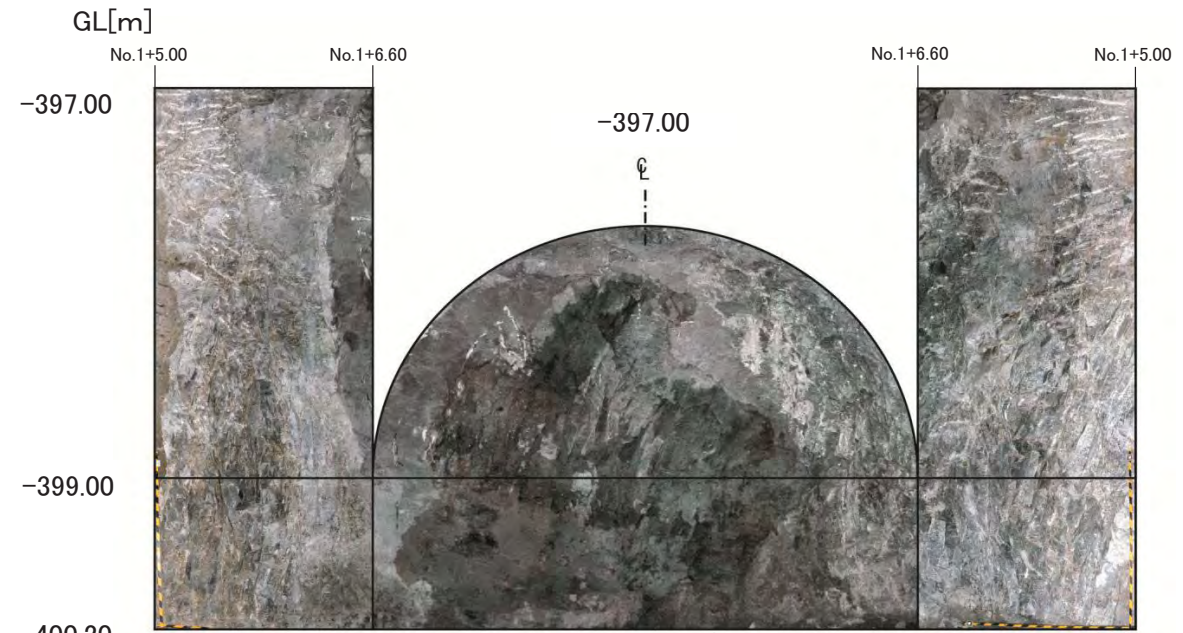
 花崗岩 湧水 割れ目 岩級区分境界 割れ目の走向傾斜



スライス断面図



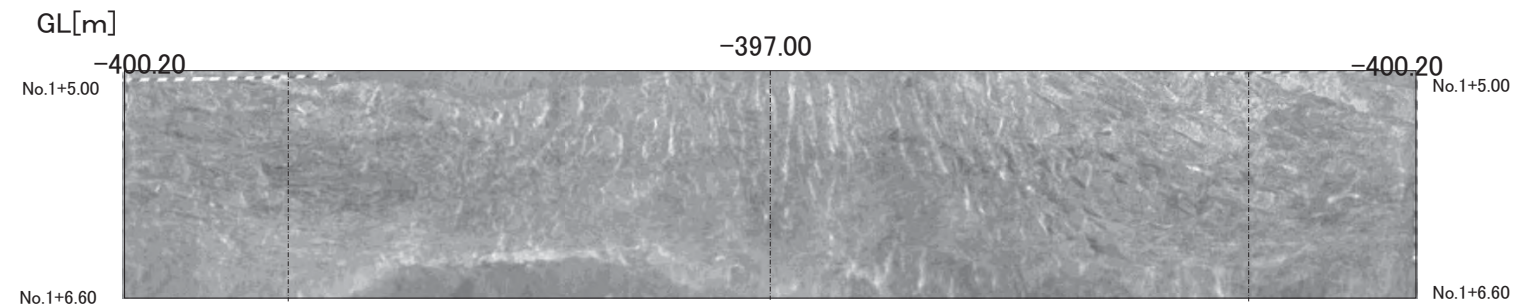
スケッチ



南側壁

可視画像

北側壁



南側壁

天端

北側壁

スキャナー画像



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -397m~-399m CM/CL G.L. -399m~-400.2m CM/CL
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡緑色, 暗緑色)	RMR値	G.L. -397m~-399m 32 G.L. -399m~-400.2m 32
風化	α	岩石試料番号	M400Y9-1R (ガウジ)、M400Y9-2R (花崗岩)
変質	3~4	採水試料番号	-
湧水	濡れる程度		

特記事項

当箇所は予備ステージの横坑であり、掘進方向はS41W方向である。横坑観察は切羽から1.6m離れた場所より目視観察を実施した。  
 岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。  
 花崗岩は全体に変質を受け、黒雲母などの有色鉱物はクロライトに置き換わり、花崗岩は全体に淡緑色~暗緑色を帯びている。南側壁では変質の程度がやや弱く、部分的に黒雲母が残存し、長石は橙色を呈する。  
 割れ目はNE~ENE走向高角度が主体で、他にNW走向高角度の割れ目も認められる。南側壁にはNS走向高角度の割れ目が2~15cm間隔で認められる。  
 割れ目はクロライト、淡緑色粘土、カルサイトを挟む物が多い。割れ目4は鏡肌を有し、φ1~3mmの円磨された石英、長石片を含む最大幅15mmの淡緑~暗緑色ガウジを挟むことから断層と判断した。

湧水は割れ目4, 5, 7から濡れる程度の量が認められた。  
 岩級区分は、切羽の大半で割れ目間隔が概ね6~15cm程度で、ハンマーの打撃で少し濡った音を出す程度であることからCM (C・IV・1) 級と評価した。鏡面右端部から北側壁の一部、南側壁の一部の花崗岩は、割れ目間隔が概ね2~6cm程度で、ハンマーの打撃で少し濡った音を立てる程度の硬さであることからCL (C・V・1) 級と評価した。



# A工区地質記載シート

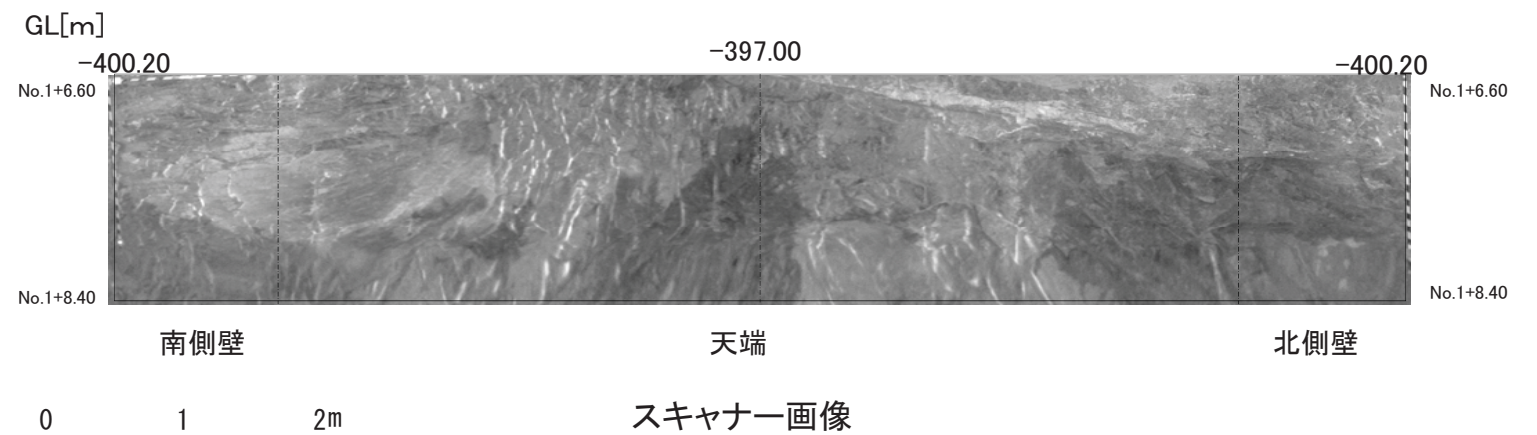
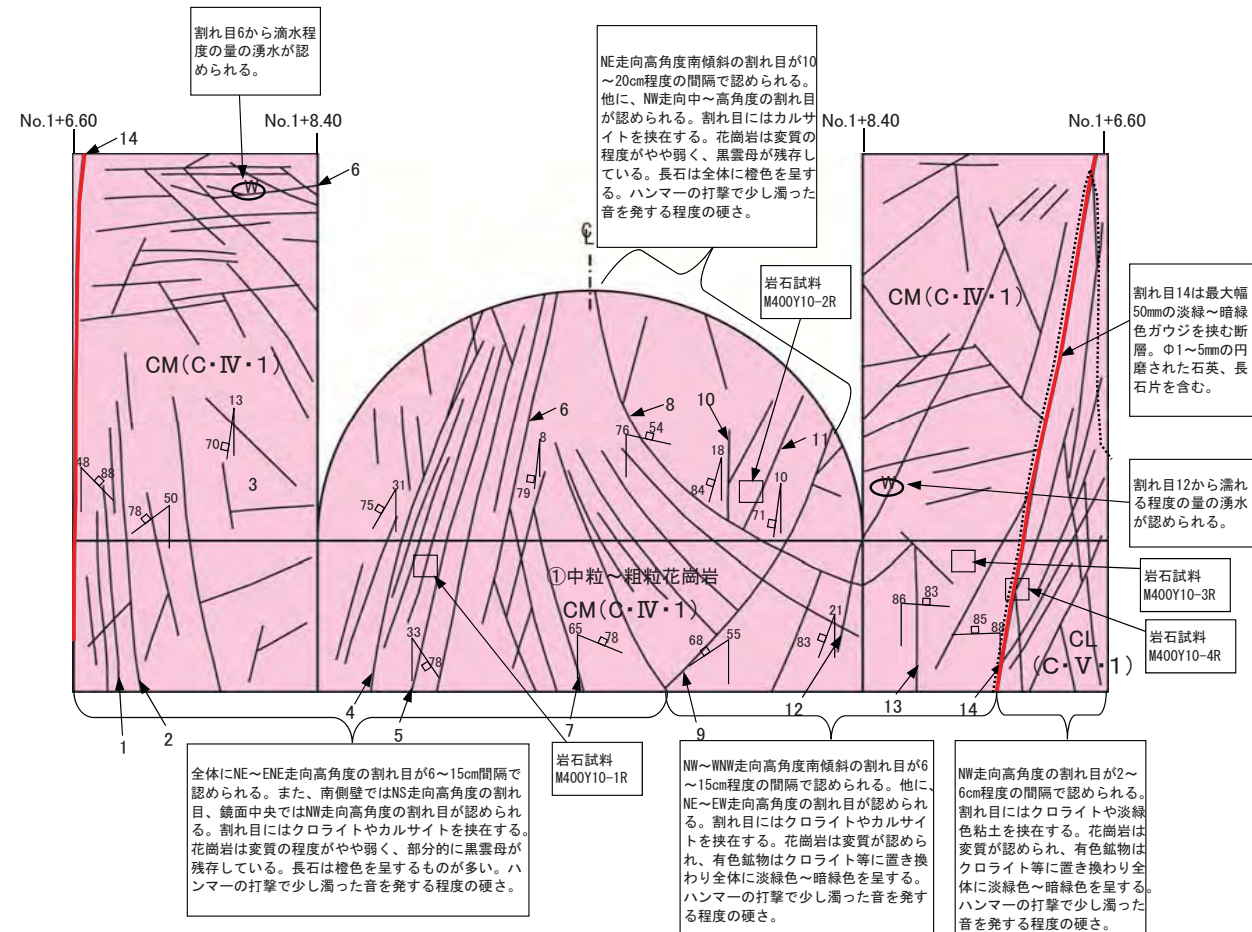
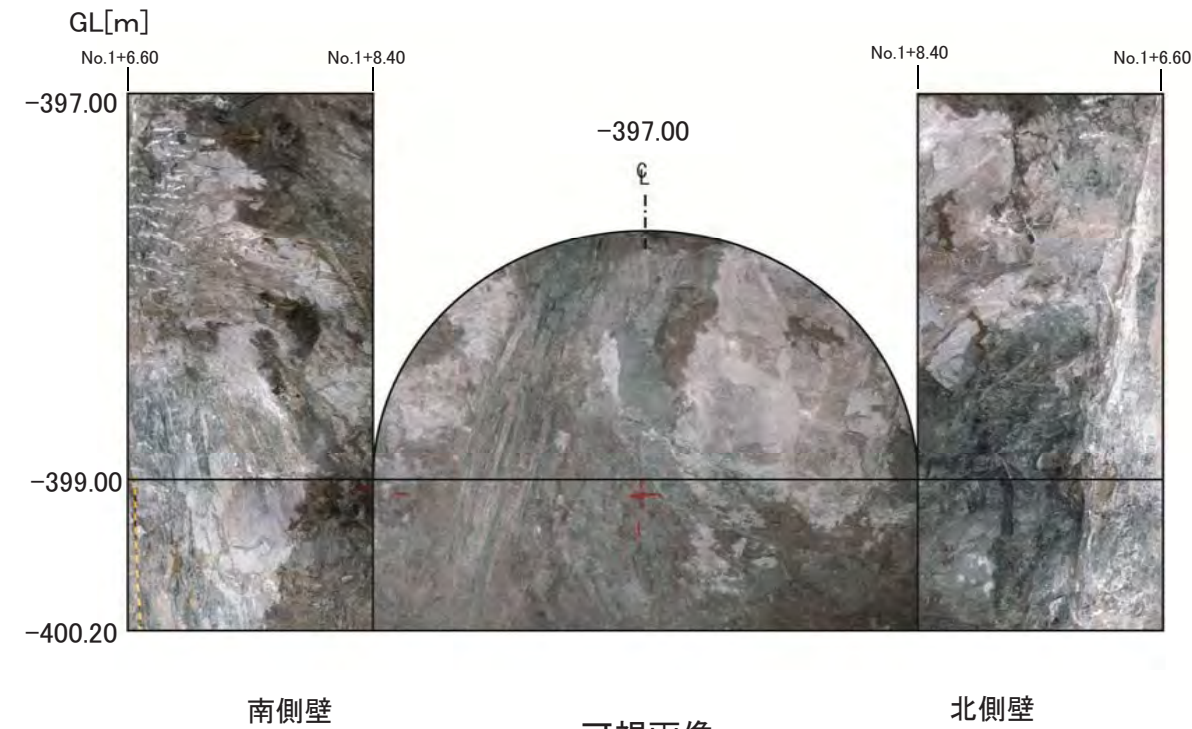
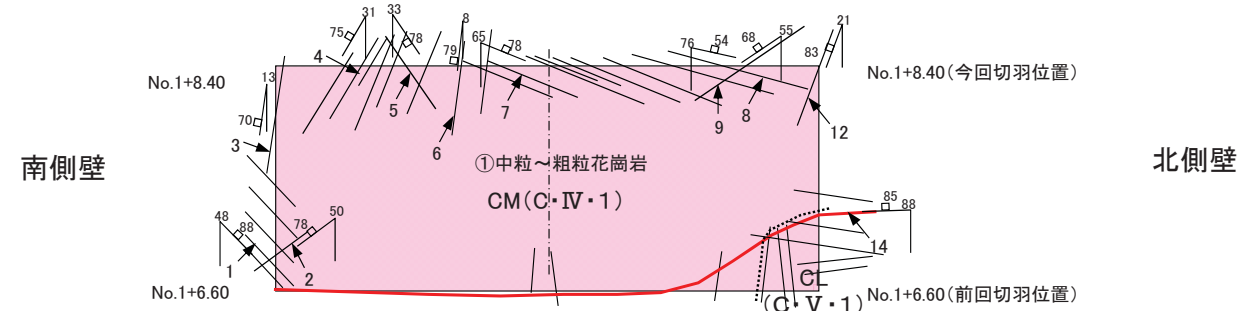
A3-請負-計測工(地質)-090926

シート番号	400m予備 S10	日時	2009/9/26 23:00~24:00	位置・深度	400m予備ステージ10 G.L. -397.0 m~G.L. -400.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	---	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

凡例 花崗岩 湧水 割れ目 岩級区分境界 割れ目の走向傾斜



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -397m~-399m CM/CL
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡緑色、暗緑色、橙色)	RMR値	G.L. -397m~-399m 29 G.L. -399m~-400.2m 35
風化	α	岩石試料番号	M400Y10-1R (花崗岩)、M400Y10-2R (花崗岩)、 M400Y10-3R (花崗岩)、M400Y10-4R (ガウジ)
変質	3~4	採水試料番号	-
湧水	滴水程度		

## 特記事項

当箇所は予備ステージの横坑であり、掘進方向はS41W方向である。横坑観察は切羽から1.8m離れた場所より目視観察を実施した。  
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。  
花崗岩は変質を受け、黒雲母などの有色鉱物は大部分がクロライトに置き換わり、全体に暗緑色から淡緑色を帯びている。鏡面右上部では変質の程度がやや弱く、黒雲母が残存し、長石は橙色を呈する。  
割れ目はNE、NW走向高角度が主体で、南側壁ではNS走向高角度の割れ目が6~15cm間隔で認められる。  
割れ目はクロライト、カルサイトを挟むものが多い。割れ目14はφ1~5mmの円磨された石英、長石片を含む最大幅50mmの淡緑~暗緑色ガウジを挟むことから断層と判断した。

湧水は割れ目6から滴水程度、割れ目12から濡れる程度の量が認められた。岩級区分は、切羽の大半で割れ目間隔が概ね6~15cm程度で、ハンマーの打撃で少し濡った音を出す程度であることからCM(C・IV・1)級と評価した。北側壁の割れ目14付近の一部の花崗岩は、割れ目間隔が概ね2~6cm程度で、ハンマーの打撃で少し濡った音を立てる程度の硬さであることからCL(C・V・1)級と評価した。



# A工区地質記載シート

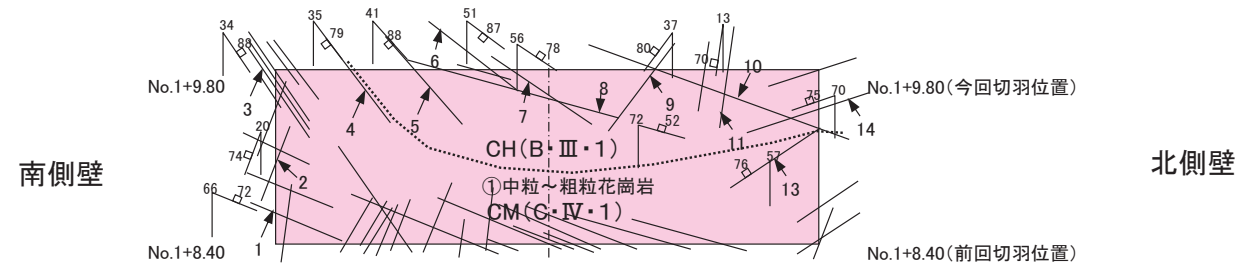
A3-請負-計測工(地質)-090930

シート番号	400m予備 S11	日時	2009/9/30 2:40~3:40	位置・深度	400m予備ステージ11 G.L. -397.0 m~G.L. -400.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	------------------------	-------	---	--------	--

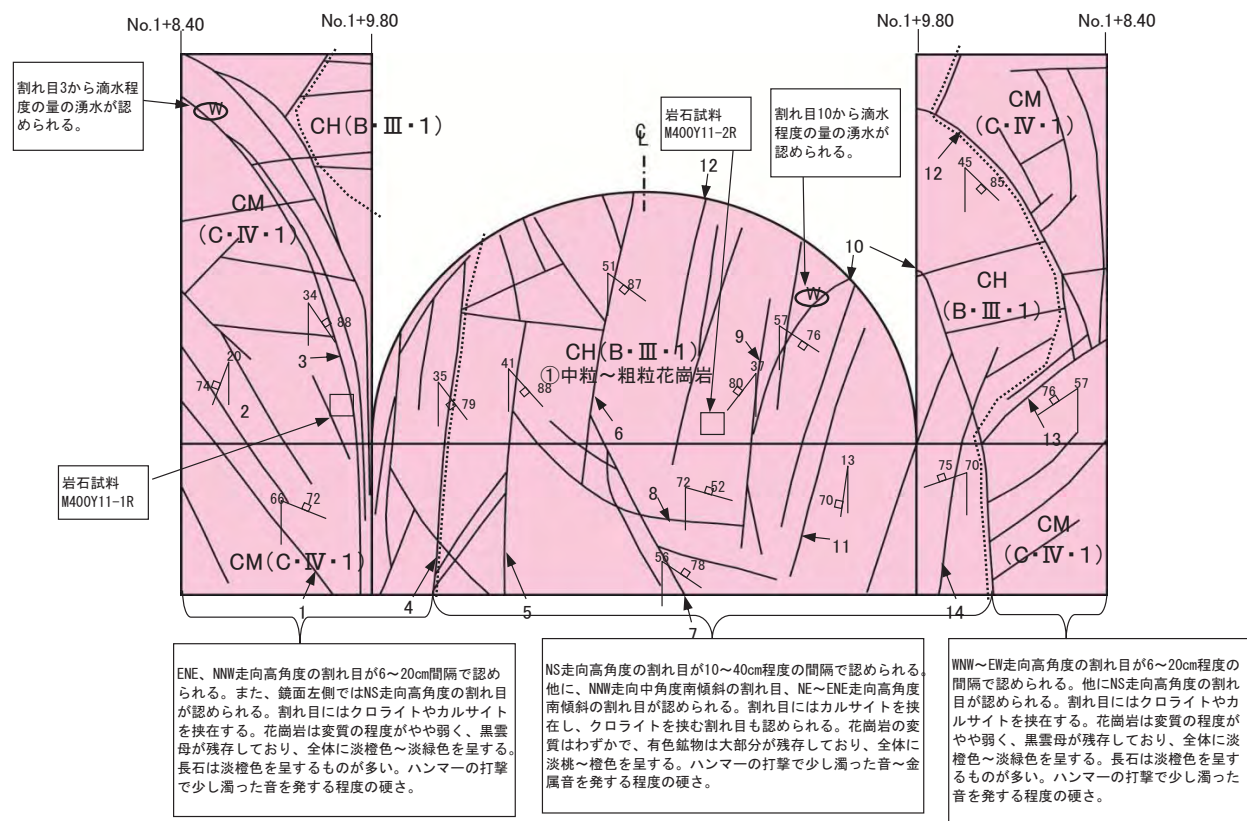
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

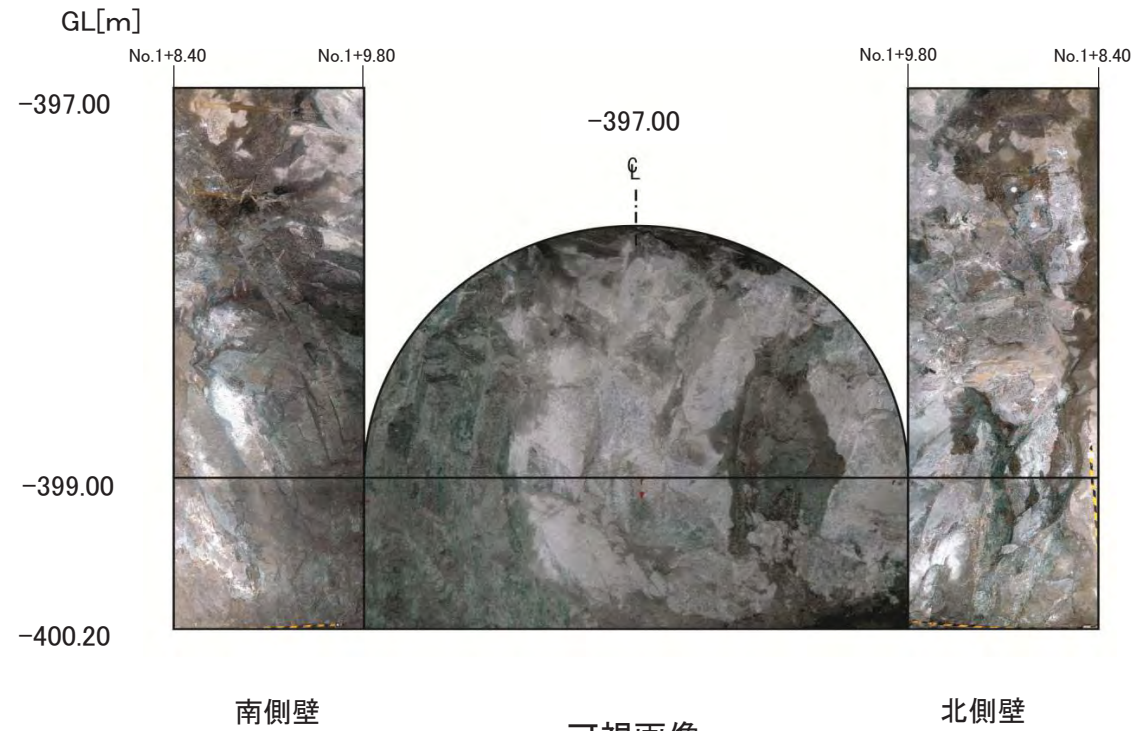
凡例 花崗岩 湧水 割れ目 岩級区分境界 割れ目の走向傾斜



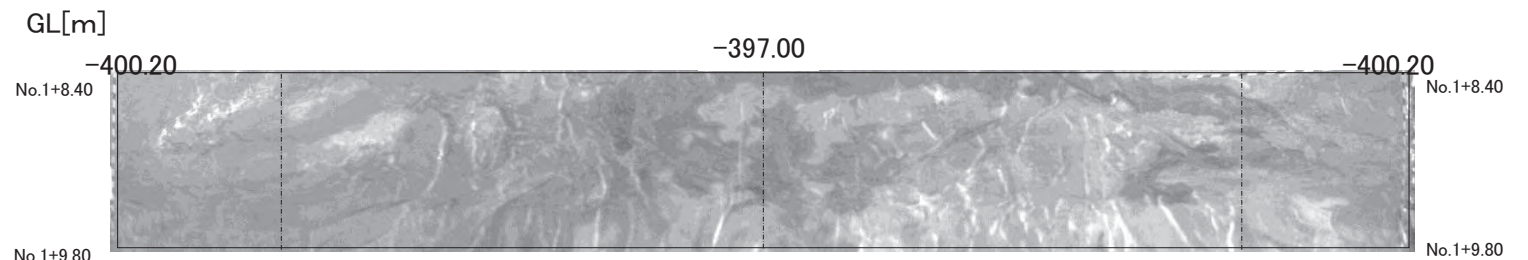
スライス断面図



スケッチ



可視画像



スキャナー画像

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -397m~-399m CH/CM G.L. -399m~-400.2m CH/CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡緑色、橙色)	RMR値	G.L. -397m~-399m 42 G.L. -399m~-400.2m 48
風化	α	岩石試料番号	M400Y11-1R (花崗岩)、M400Y11-2R (花崗岩)
変質	3~4	採水試料番号	-
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所は予備ステージの横坑であり、掘進方向はS41W方向である。横坑観察は切羽から1.4m離れた場所より目視観察を実施した。  
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。  
花崗岩の変質の程度は弱く、黒雲母などの有色鉱物はほぼ残存している。全体に淡桃~橙色を呈し、一部でやや淡緑色を帯びている。  
割れ目は鏡面ではNS走向高角度が主体で、10~40cm間隔で認められる。他にNE、NW走向中~高角度の割れ目が認められる。また、北側壁ではEW走向高角度、南側壁ではNE、NW走向高角度の割れ目が6~20cm間隔で認められる。  
割れ目はカルサイトを挟むものも多く、クロライトを挟む割れ目も認められる。

湧水は割れ目3および10から滴水程度の量が認められた。  
岩級区分は、鏡面の大部分および北側壁、南側壁の一部では割れ目間隔が概ね10~40cm程度で、ハンマーの打撃で少し濡った音~金属音を出す程度であることからCH(B・Ⅲ・1)級と評価した。鏡面の左端部、南側壁の大部分、北側壁のN側の花崗岩は、割れ目間隔が概ね6~20cm程度で、ハンマーの打撃で少し濡った音を立てる程度の硬さであることからCM(C・Ⅳ・1)級と評価した。



# A工区地質記載シート

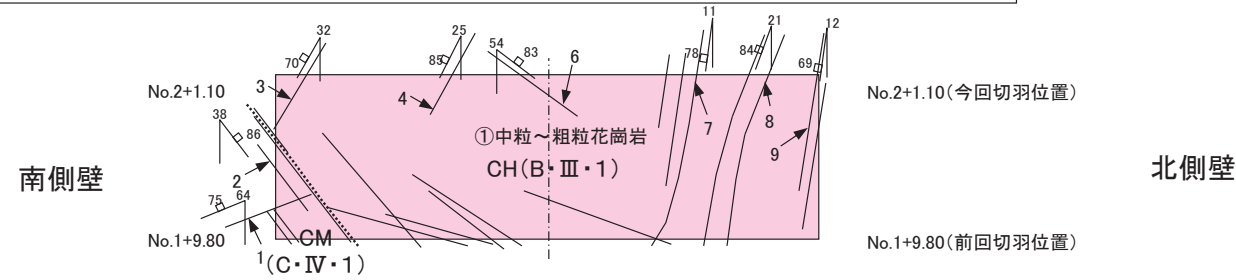
A3-請負-計測工(地質)-091001

シート番号	400m予備 S12	日時	2009/10/1 3:00~4:00	位置・深度	400m予備ステージ12 G.L. -397.0 m~G.L. -400.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	------------------------	-------	---	--------	--

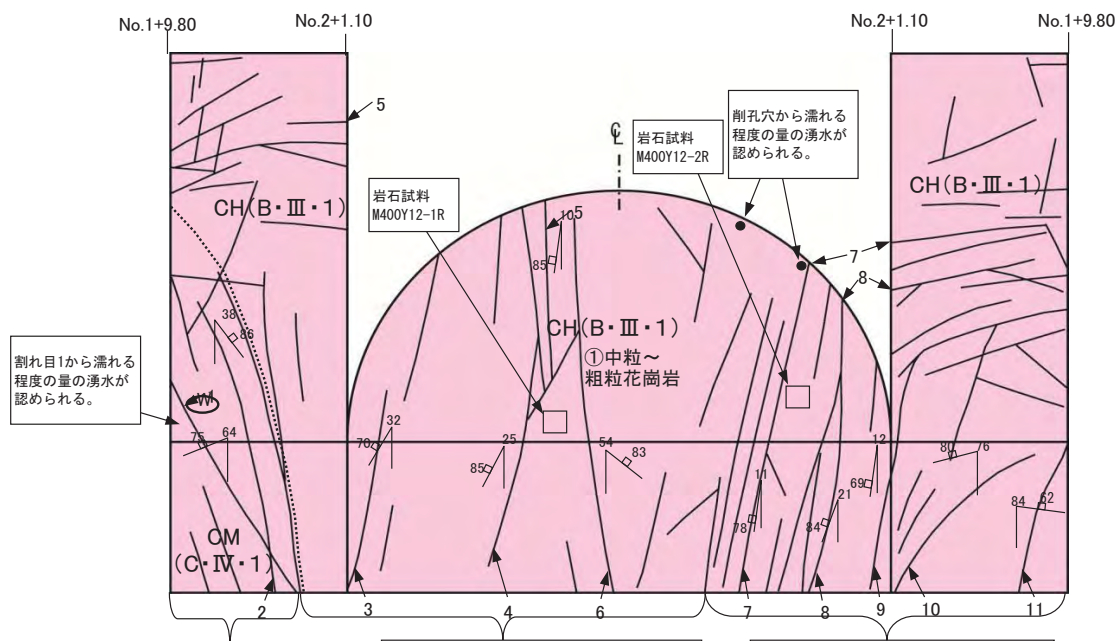
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

凡例	花崗岩	湧水	割れ目	岩級区分境界	割れ目の走向傾斜
----	-----	----	-----	--------	----------



スライス断面図

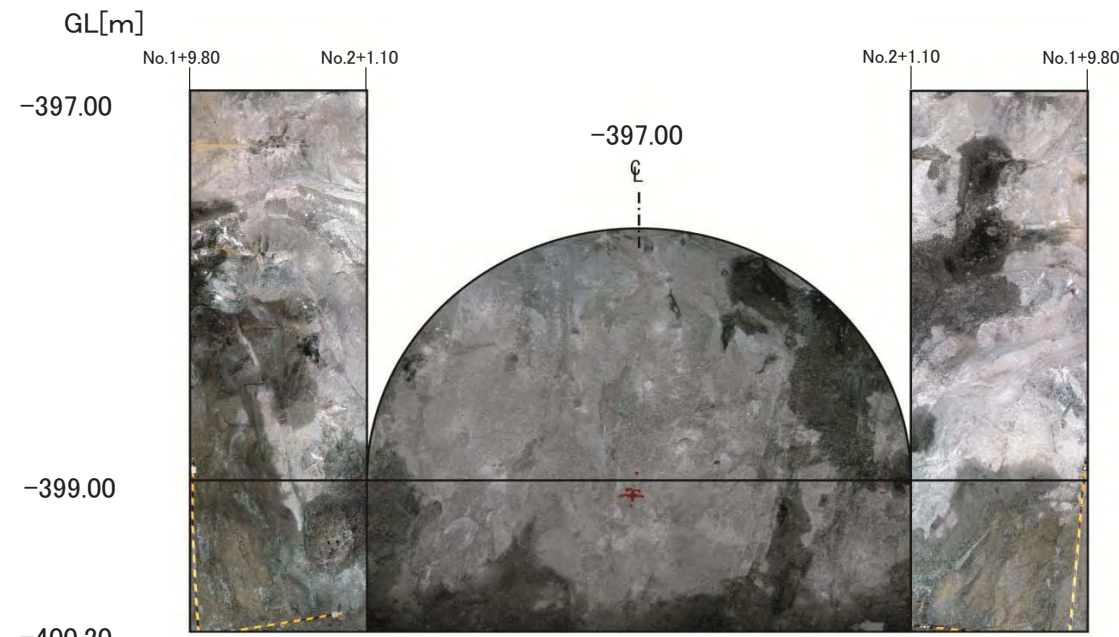


スケッチ

NS、WNW走向高角度の割れ目が6~20cm間隔で認められる。割れ目にはカルサイトを挟在する。花崗岩はわずかに変質が認められるが、有色鉱物は大部分が残存しており、全体に淡桃~橙色を呈する。ハンマーの打撃で少し濁った音を発する程度の硬さ。

NE~ENE、NNW走向高角度南傾斜の割れ目が20~50cm程度の間隔で認められる。割れ目にはカルサイトを挟在し、クロライトを挟む割れ目も認められる。花崗岩はわずかに変質が認められるが、有色鉱物は大部分が残存しており、全体に淡桃~橙色を呈する。ハンマーの打撃で少し濁った音~金属音を発する程度の硬さ。

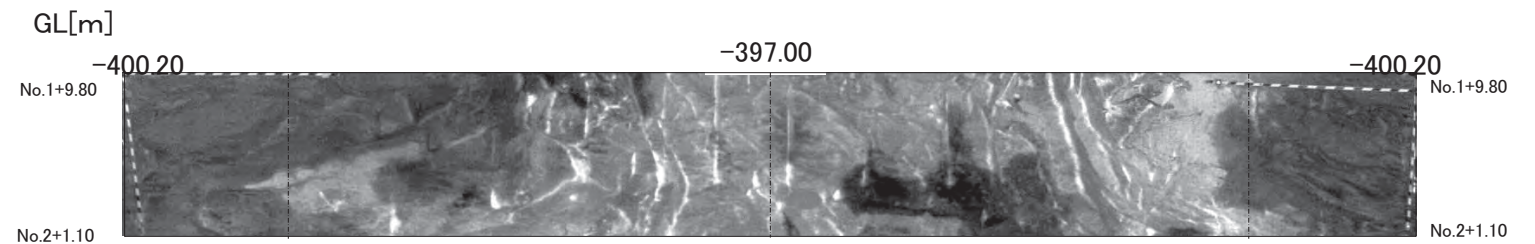
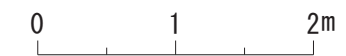
NE走向高角度南傾斜の割れ目が10~30cm程度の間隔で認められる。他に北側壁ではNW走向中~高角度の割れ目が認められる。割れ目にはカルサイトを挟在し、クロライトを挟む割れ目も認められる。花崗岩はわずかに変質が認められるが、有色鉱物は大部分が残存しており、全体に淡桃~橙色を呈する。ハンマーの打撃で少し濁った音~金属音を発する程度の硬さ。



南側壁

可視画像

北側壁



南側壁

天端

北側壁

スキャナー画像



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -397m~-399m CH/CM G.L. -399m~-400.2m CH/CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色)	RMR値	G.L. -397m~-399m 47 G.L. -399m~-400.2m 50
風化	α	岩石試料番号	M400Y12-1R (花崗岩)、M400Y12-2R (花崗岩)
変質	2~3	採水試料番号	-
湧水	濡れる程度		

特記事項

当箇所は予備ステージの横坑であり、掘進方向はS41W方向である。横坑観察は切羽から1.3m離れた場所より目視観察を実施した。  
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。  
花崗岩はやや変質が認められるが、黒雲母などの有色鉱物は残存しているものが多く、全体に淡桃~橙色を呈する。  
割れ目は鏡面ではNE走向高角度が主体で、鏡面中央から左側では20~50cm間隔、右側では10~30cm間隔で認められる。他にNNW走向高角度の割れ目が認められる。また、北側壁ではNW走向中~高角度の割れ目が10~30cm間隔、南側壁ではNS、WNW走向高角度の割れ目が6~20cm間隔で認められる。  
割れ目はカルサイトを挟在するものが多く、一部ではクロライトを挟む割れ目も認められる。

湧水は割れ目1から濡れる程度の量が認められた。また、鏡面右上部の削孔穴から濡れる程度の湧水が認められた。  
岩級区分は、鏡面、南側壁および北側壁の一部では割れ目間隔が概ね20~50cm程度で、ハンマーの打撃で少し濁った音~金属音を出す程度であることからCH(B・Ⅲ・1)級と評価した。北側壁の一部の花崗岩は、割れ目間隔が概ね6~20cm程度で、ハンマーの打撃で少し濁った音を立てる程度の硬さであることからCM(C・Ⅳ・1)級と評価した。



# A工区地質記載シート

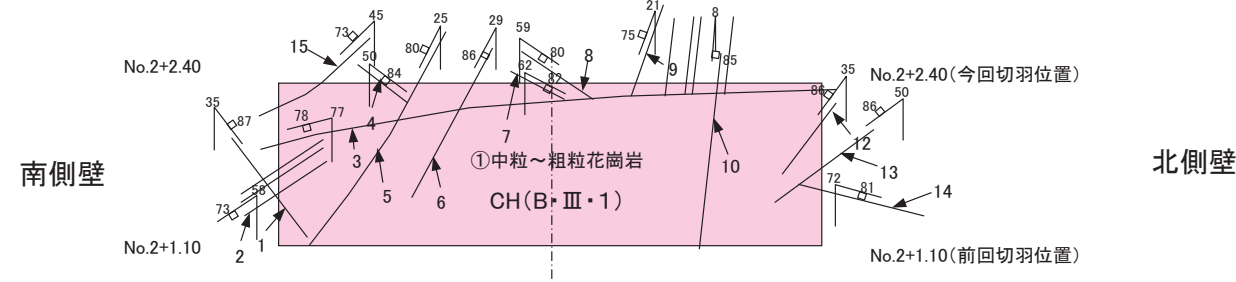
A3-請負-計測工(地質)-091001

シート番号	400m予備 S13	日時	2009/10/1 17:10~18:10	位置・深度	400m予備ステージ13 G.L. -397.0 m~G.L. -400.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	---	--------	--

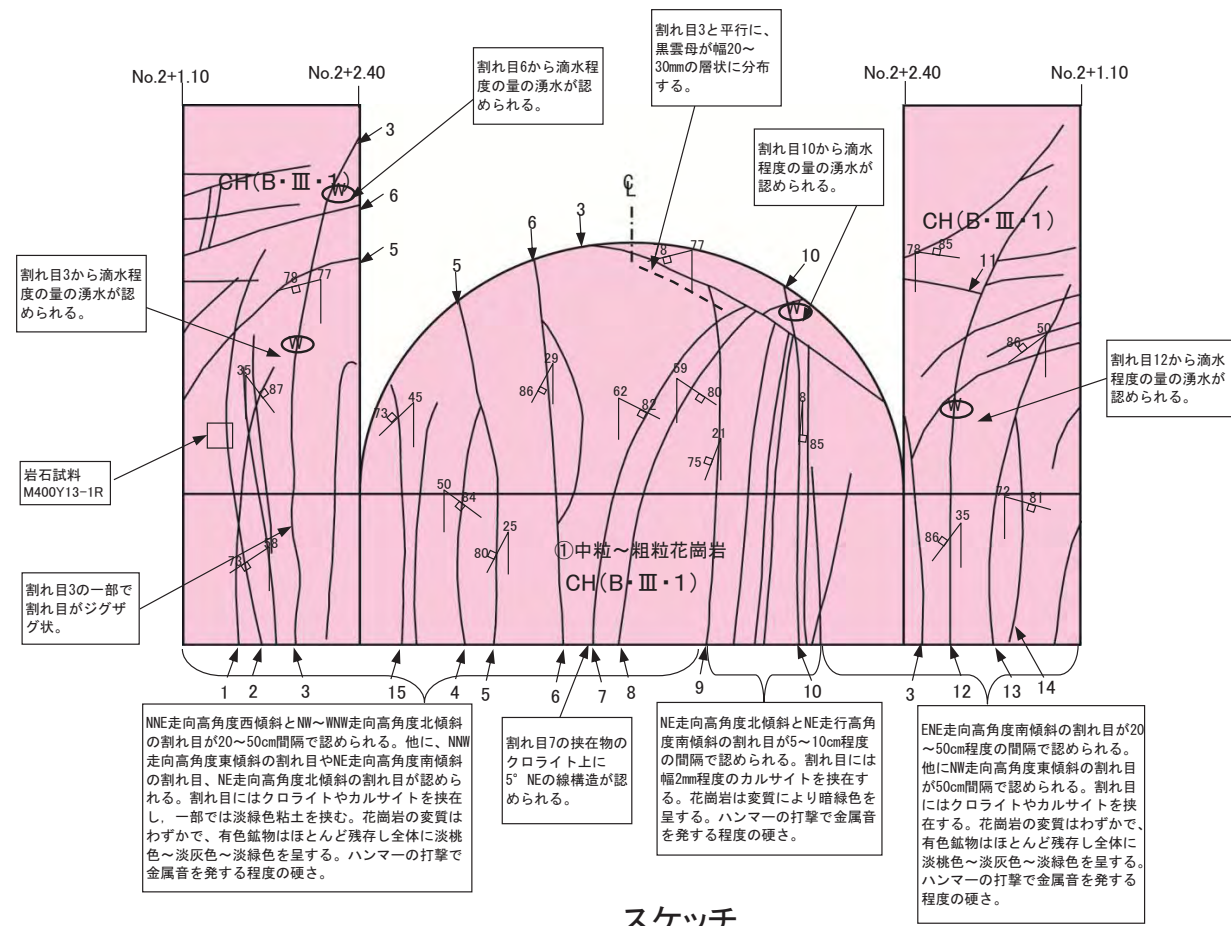
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

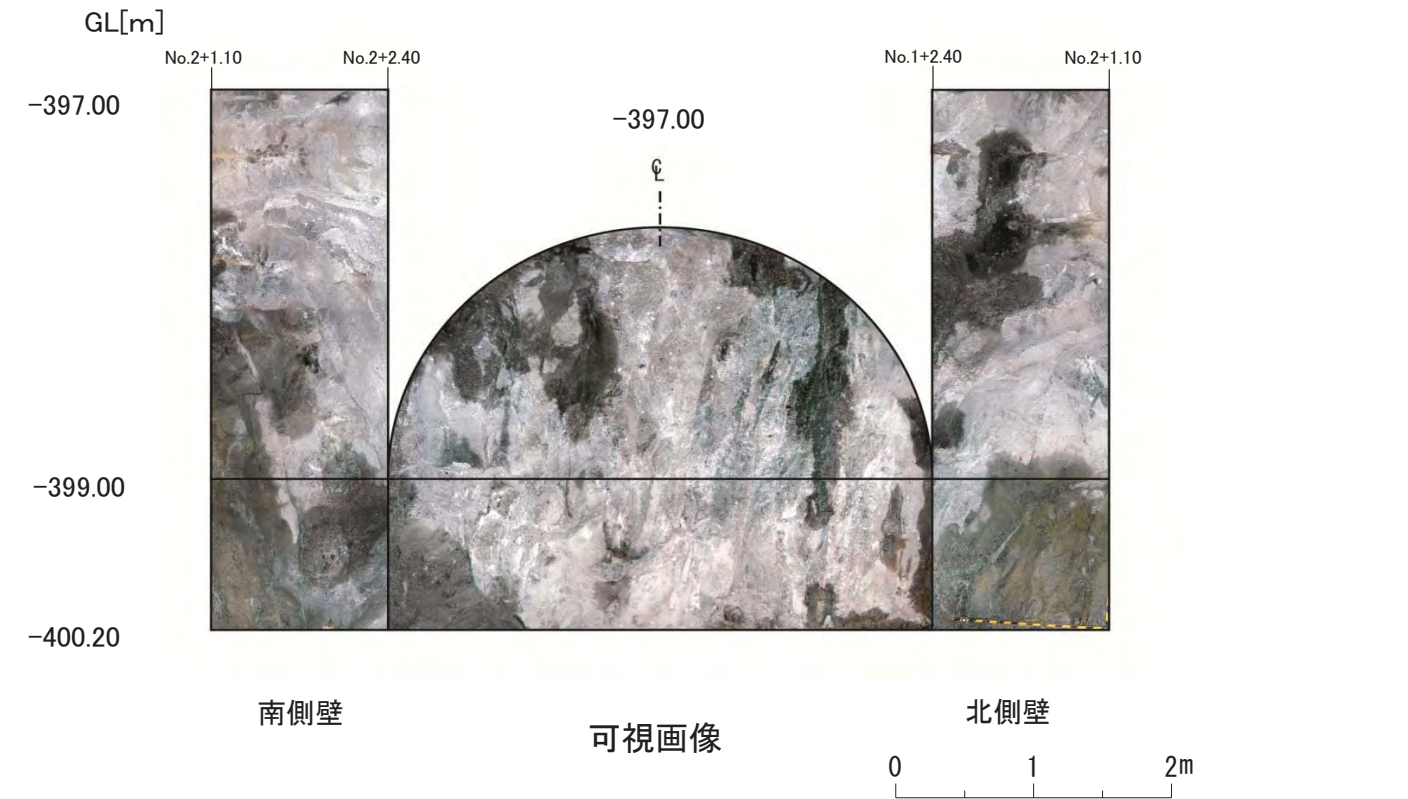
凡例 花崗岩 湧水 割れ目 岩級区分境界 割れ目の走向傾斜 黒雲母の濃集



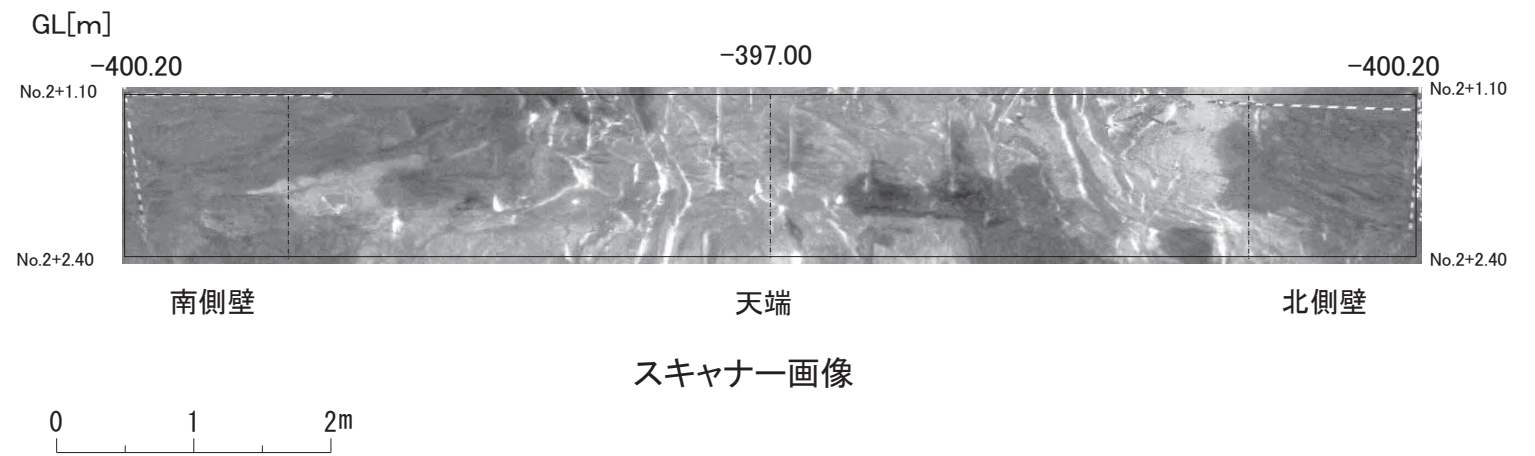
スライス断面図



スケッチ



可視画像



スキャナー画像

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -397m~-399m G.L. -399m~-400.2m	CH CH
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡緑色、暗緑色、淡桃色)	RMR値	G.L. -397m~-399m G.L. -399m~-400.2m	63 69
風化	α	岩石試料番号	M400Y13-1R (花崗岩)	
変質	2~3	採水試料番号	-	
湧水	滴水程度			

特記事項

当箇所は予備ステージの横坑であり、掘進方向はS41W方向である。横坑観察は切羽から1.3m離れた場所より目視観察を実施した。  
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。  
花崗岩の変質はわずかで、黒雲母などの有色鉱物は概ね残存しており、全体に淡桃色～淡白色を呈するが、割れ目9~10の間付近は変色の程度が強く花崗岩は暗緑色を呈する。  
割れ目は鏡面ではNE~ENE走向高角度とNW~WNW走向高角度が主体で、20~50cm間隔で認められる。割れ目9と10の間付近は割れ目の間隔が5~10cm程度である。  
割れ目はカルサイトとクォーライトを挟在するものが多く、割れ目9と10の間付近の割れ目は幅2mm程度のカルサイトを挟在している。

湧水は割れ目3、6、10、12から滴水程度の量が認められた。  
岩級区分は、切羽全体で割れ目間隔が概ね20~50cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を出す程度であることからCH(B・Ⅲ・1)級と評価した。



# A工区地質記載シート

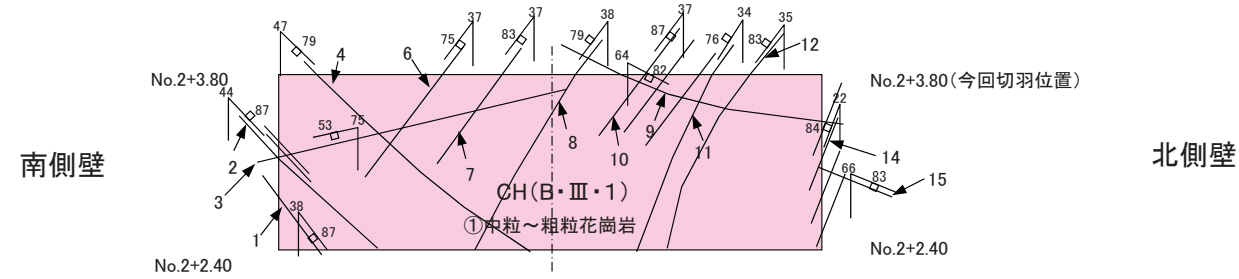
A3-請負-計測工(地質)-091002

シート番号	400m予備 S14	日時	2009/10/2 11:00~12:00	位置・深度	400m予備ステージ14 G.L. -397.0 m~G.L. -400.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	---	--------	--

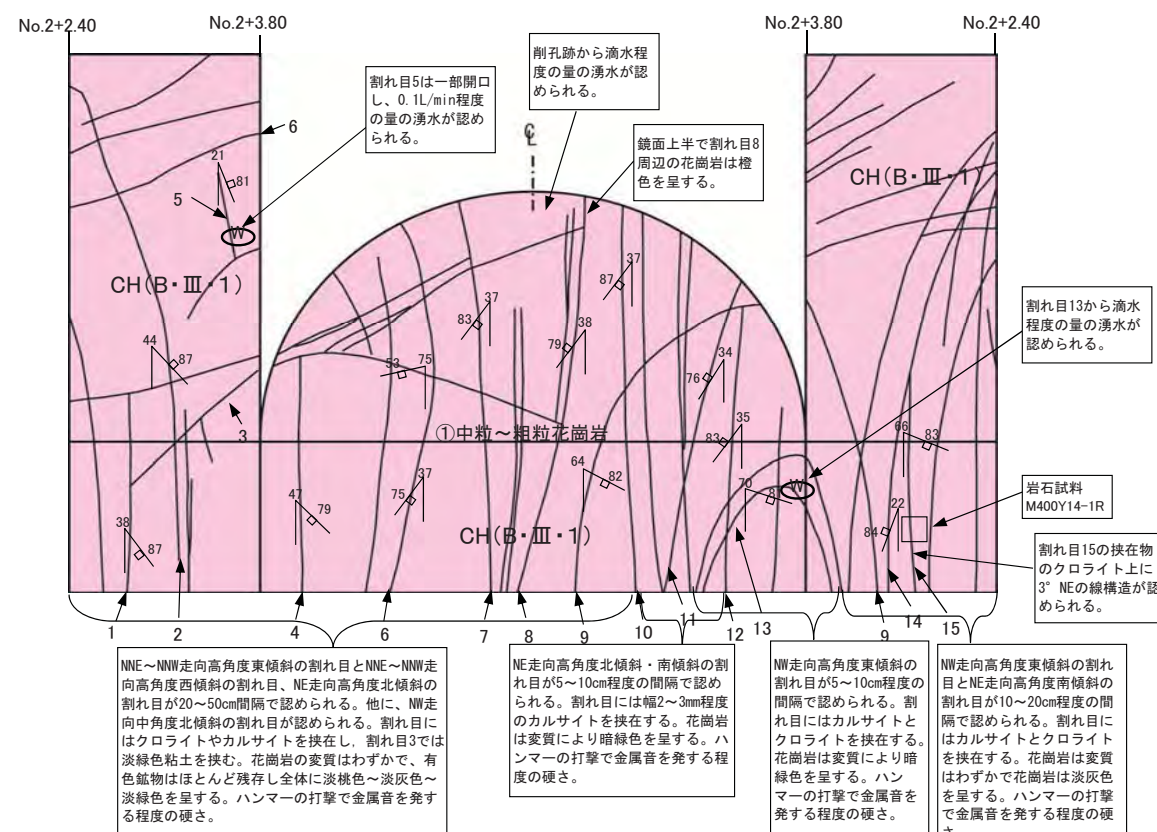
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

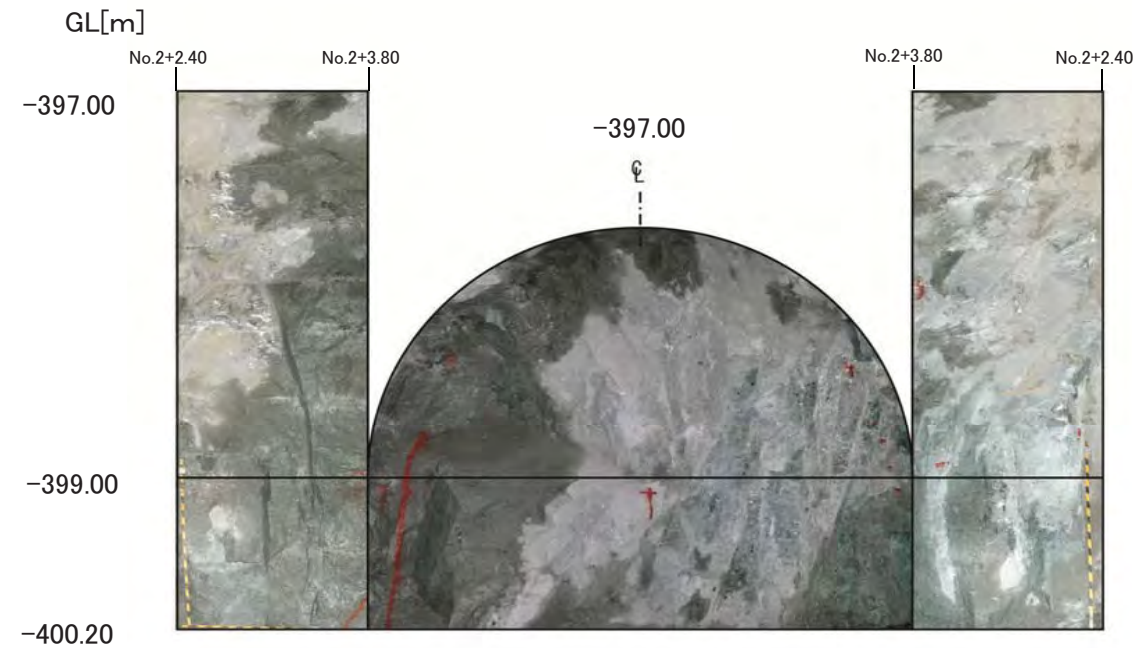
凡例	花崗岩	湧水	割れ目	70°	割れ目の走向傾斜
----	-----	----	-----	-----	----------



スライス断面図



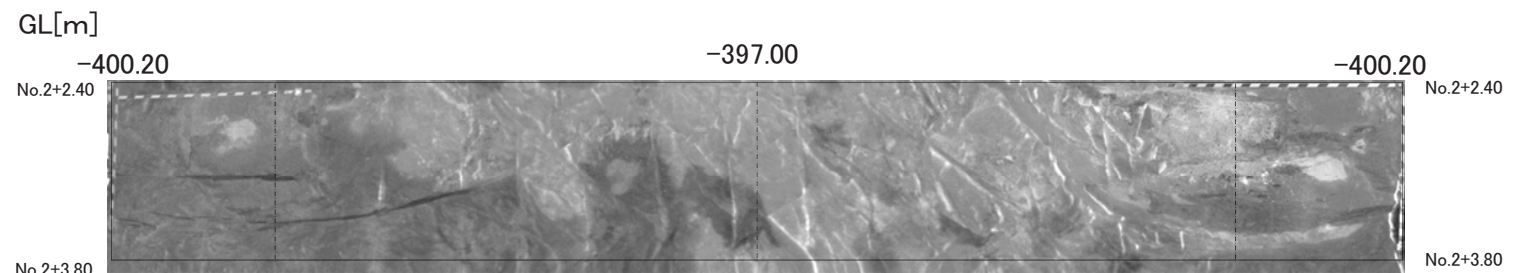
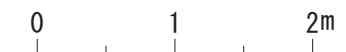
スケッチ



南側壁

可視画像

北側壁



南側壁

天端

北側壁



スキャナー画像

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -397m~-399m CH G.L. -399m~-400.2m CH
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色、淡緑色、暗緑色)	RMR値	G.L. -397m~-399m 63 G.L. -399m~-400.2m 63
風化	α	岩石試料番号	M400Y14-1 (花崗岩)
変質	2~3	採水試料番号	-
湧水	0.1L/min程度		

特記事項

当箇所は予備ステージの横坑であり、掘進方向はS41W方向である。横坑観察は切羽から1.4m離れた場所より目視観察を実施した。  
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。  
花崗岩の変質はわずかで、黒雲母などの有色鉱物は概ね残存しており、全体に淡桃色～淡白色を呈するが、割れ目10から12の間付近は変質の程度が強く花崗岩は暗緑色を呈する。  
割れ目はNNE~NNW走向高角度とNE走向高角度が主体で、20~50cm間隔で認められるが、割れ目10から12の間付近は割れ目の間隔が5~10cm程度である。他にNW走向中角度割れ目とNW走向高角度割れ目が認められる。割れ目はカルサイトとクォーライトを挟在するものが多く、割れ目10と12の間付近の割れ目は幅2~3mm程度のカルサイトを挟在している。

湧水は割れ目5、13から0.1L/min程度の量が認められた。また天端付近の割れ目から滴水程度の湧水が認められた。  
岩級区分は、切羽全体で割れ目間隔が概ね20~50cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を出す程度であることからCH(B・Ⅲ・1)級と評価した。



# A工区地質記載シート

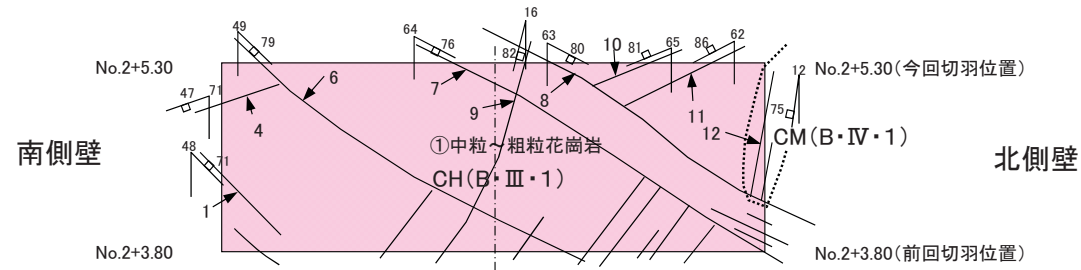
A3-請負-計測工(地質)-091003

シート番号	400m予備 S15	日時	2009/10/3 3:10~4:10	位置・深度	400m予備ステージ15 G.L. -397.0 m~G.L. -400.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	------------------------	-------	---	--------	--

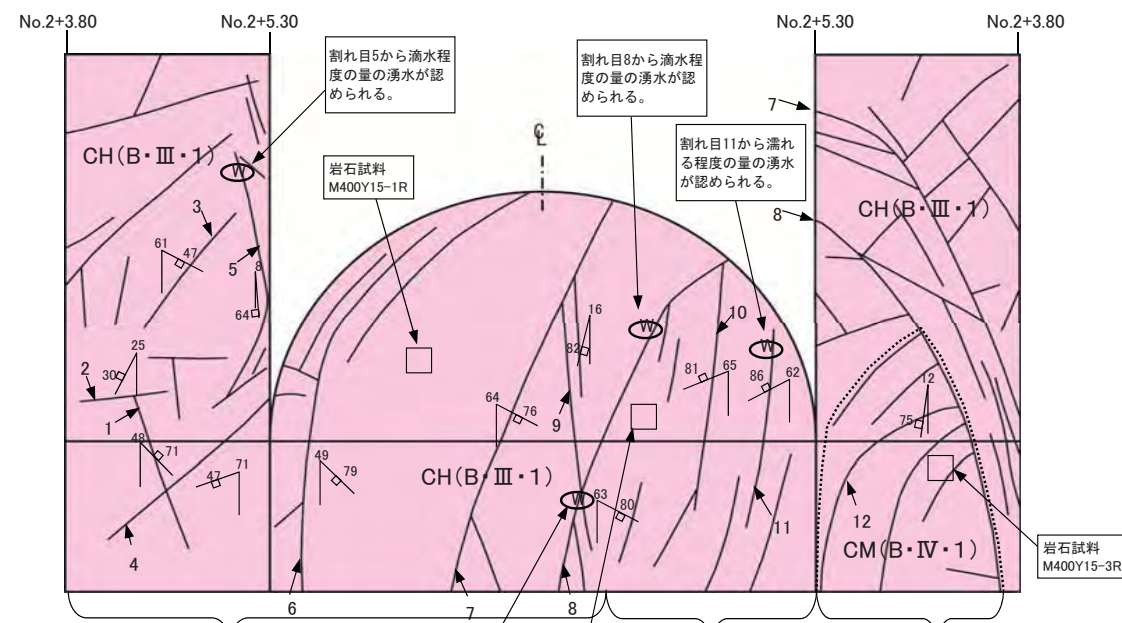
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

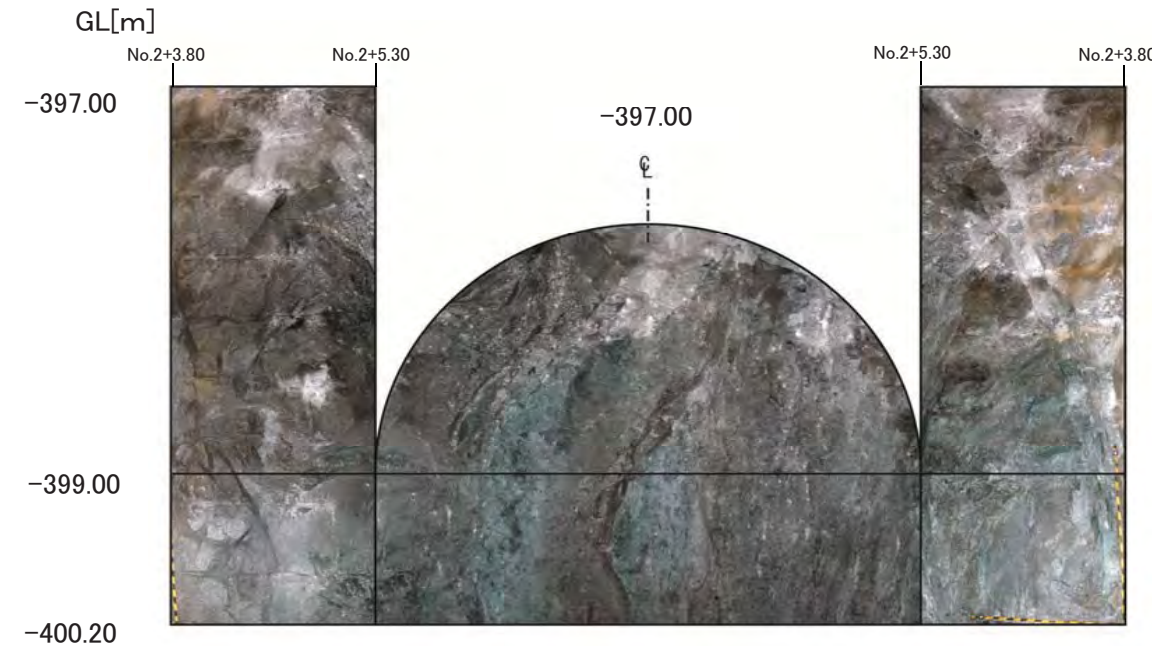
凡例	花崗岩	湧水	割れ目	岩級区分境界	割れ目の走向傾斜
----	-----	----	-----	--------	----------



スライス断面図



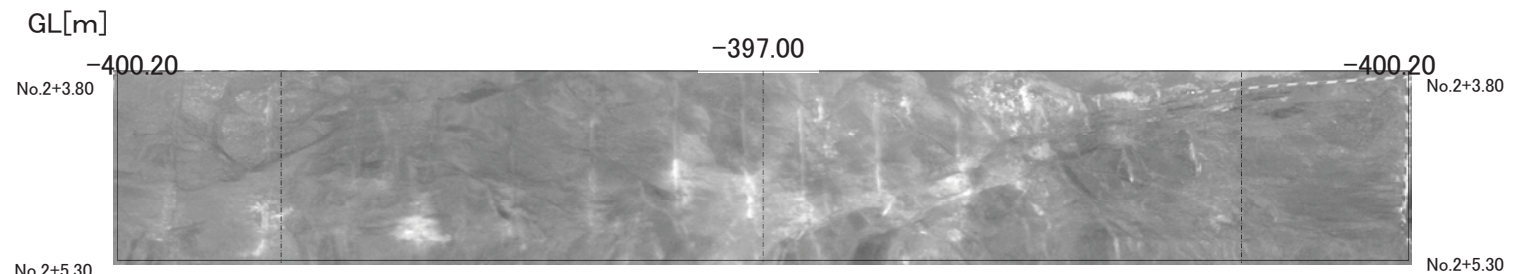
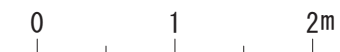
スケッチ



南側壁

可視画像

北側壁



南側壁

天端

北側壁



スキャナー画像

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -397m~-399m CH/CM G.L. -399m~-400.2m CH/CM
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡灰色、淡緑色)	RMR値	G.L. -397m~-399m 63 G.L. -399m~-400.2m 63
風化	α	岩石試料番号	M400Y15-1R (花崗岩)、M400Y15-2R (花崗岩)、M400Y15-3R (花崗岩)
変質	2~3	採水試料番号	-
湧水	0.2L/min程度		

特記事項

当箇所は予備ステージの横坑であり、掘進方向はS41W方向である。横坑観察は切羽から1.5m離れた場所より目視観察を実施した。  
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。  
花崗岩は変質はわずかで、黒雲母などの有色鉱物は概ね残存しており、全体に淡灰色~淡緑色を呈する。  
割れ目は鏡面中央から左側ではNW走向高角度が主体で、20~50cm間隔で認められる。鏡面右側ではWNW走向高角度の割れ目が認められる。他にNE走向高角度の割れ目が認められる。北側壁ではNE走向高角度の割れ目が5~15cm間隔、南側壁ではNNW走向高角度、WNW、NE走向中~高角度の割れ目が20~30cm間隔で認められる。  
割れ目はカルサイトを挟むものが多く、一部ではクロライトや淡緑色粘土を挟む割れ目も認められる。

湧水は割れ目8から0.2L/min程度の量、割れ目5から滴水程度の量、割れ目11から濡れる程度の量が認められた。  
岩級区分は、鏡面、南側壁および北側壁の大部分では割れ目間隔が概ね20~50cm程度で、ハンマーの打撃で少し濡った音~金属音を出す程度であることからCH(B・Ⅲ・1)級と評価した。北側壁の一部の花崗岩は、割れ目間隔が概ね5~15cm程度で、ハンマーの打撃で少し濡った音~金属音を出す程度の硬さであることからCM(B・Ⅳ・1)級と評価した。



# A工区地質記載シート

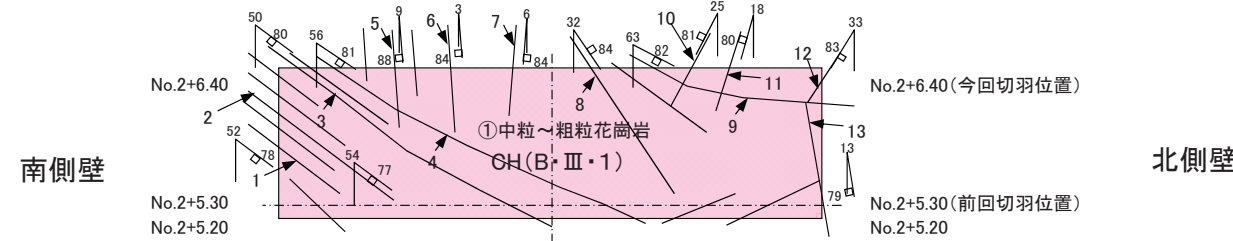
A3-請負-計測工(地質)-091006

シート番号	400m予備 S16	日時	2009/10/6 3:40~4:40	位置・深度	400m予備ステージ16 G.L. -397.0 m~G.L. -400.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	------------------------	-------	---	--------	--

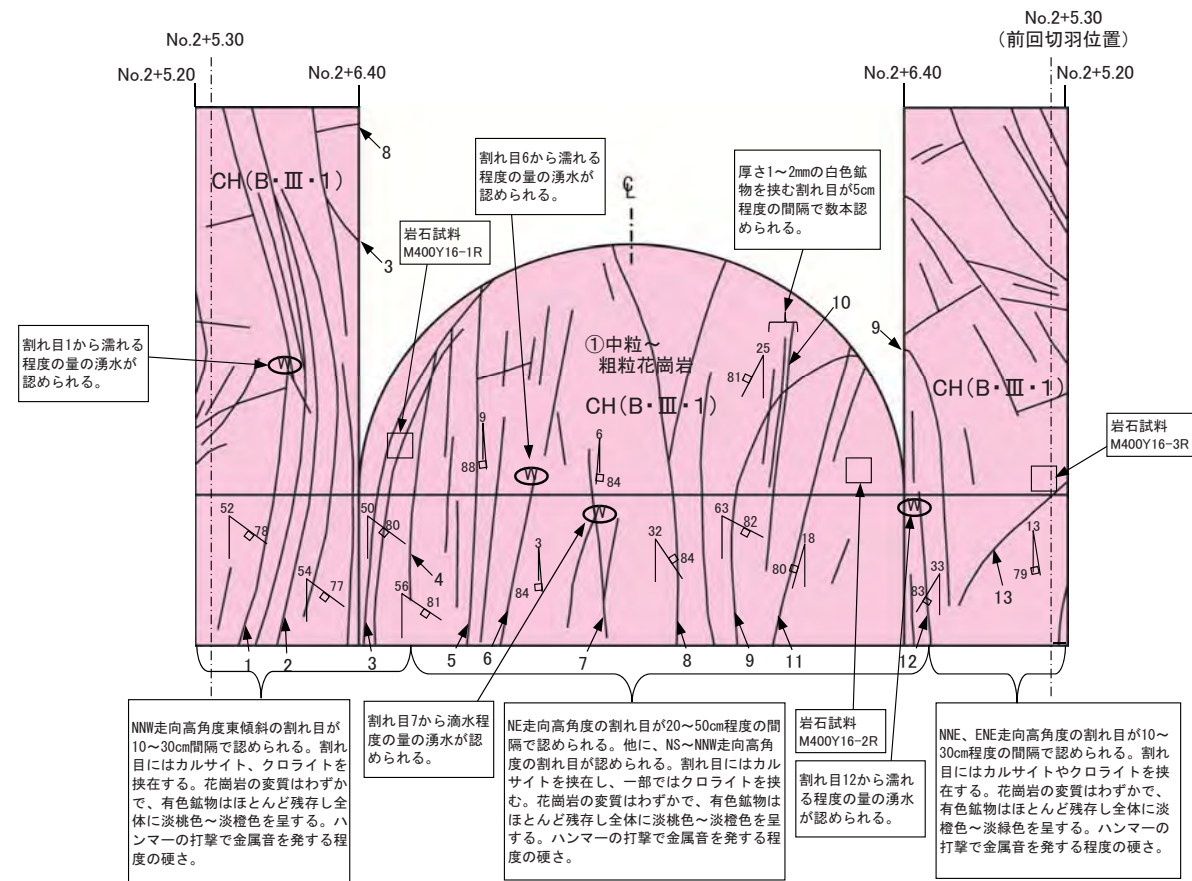
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

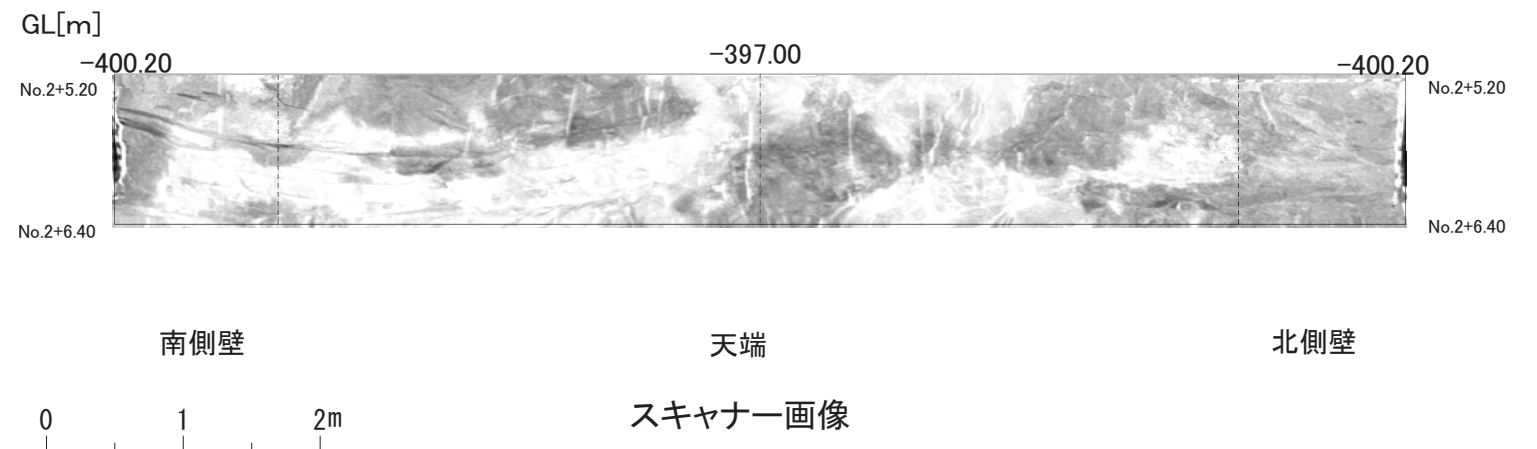
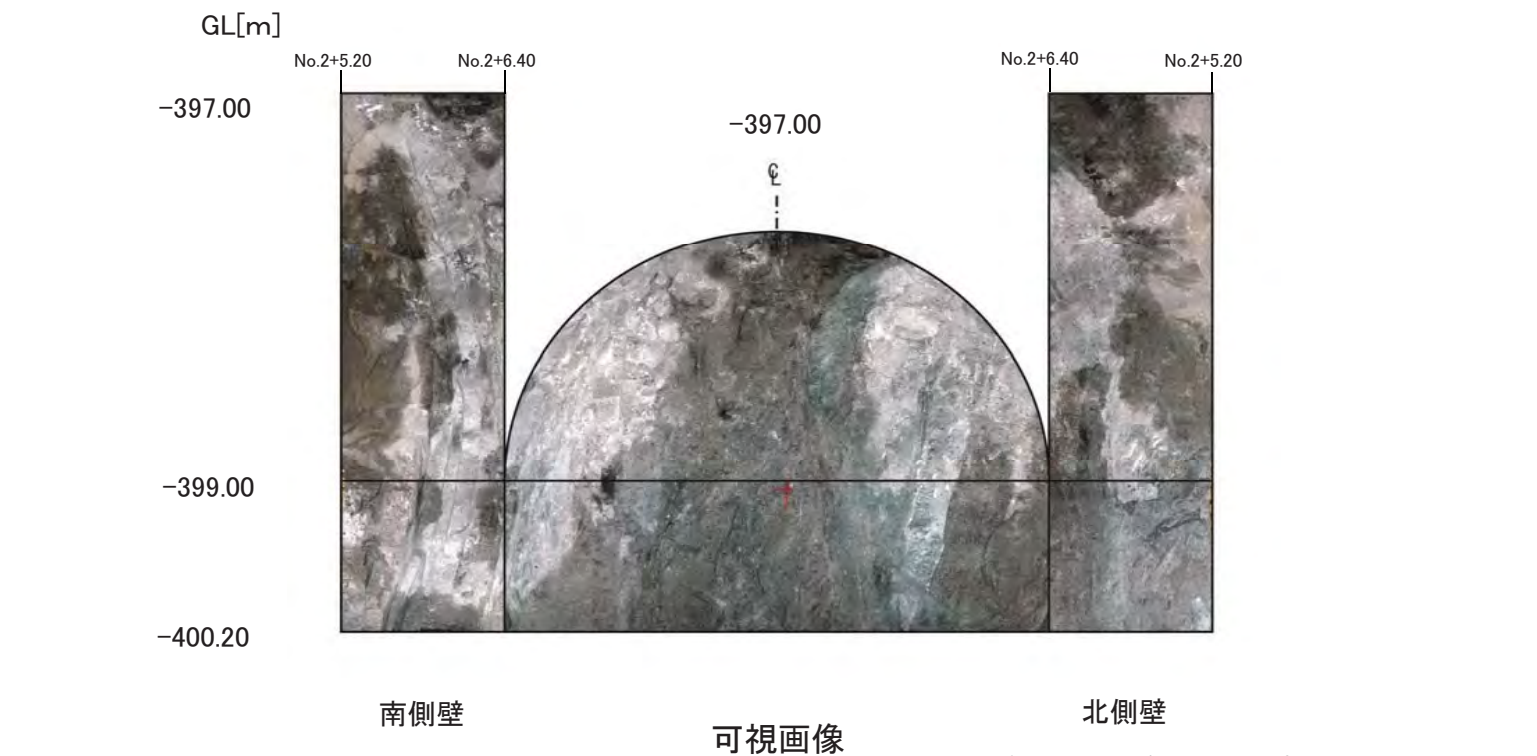
凡例	花崗岩	湧水	割れ目	岩級区分境界	割れ目の走向傾斜
----	-----	----	-----	--------	----------



スライス断面図



スケッチ



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -397m~-399m G.L. -399m~-400.2m	CH CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡橙色、淡緑色)	RMR値	G.L. -397m~-399m G.L. -399m~-400.2m	61 58
風化	α	岩石試料番号	M400Y16-1R (花崗岩)、M400Y16-2R (花崗岩)、 M400Y16-3R (花崗岩)	
変質	2~3	採水試料番号	-	
湧水	滴水程度			

**特記事項**

当箇所は予備ステージの横坑であり、掘進方向はS41W方向である。横坑観察は切羽から1.2m離れた場所より目視観察を実施した。  
 岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。  
 花崗岩は変質はわずかで、黒雲母などの有色鉱物は概ね残存しており、全体に淡桃色~淡橙色を呈する。北側壁ではやや淡緑色を帯びる。割れ目は鏡面左側から南側壁まではNNW走向高角度が主体で、10~30cm間隔で認められる。鏡面中央から右側ではNE走向高角度の割れ目が20~50cm間隔で認められる。他にNS~NNW走向高角度の割れ目が認められる。北側壁ではNNE、ENE走向高角度の割れ目が10~30cm間隔で認められる。割れ目はカルサイトを挟むものも多く、一部ではクロライトを挟む割れ目も認められる。

湧水は割れ目7から滴水程度の量、割れ目1、6、12から濡れる程度の量が認められた。  
 岩級区分は、全体に割れ目間隔が概ね20~50cm程度で、ハンマーの打撃で少し濡った音~金属音を出す程度であることからCH(B・Ⅲ・1)級と評価した。



# A工区地質記載シート

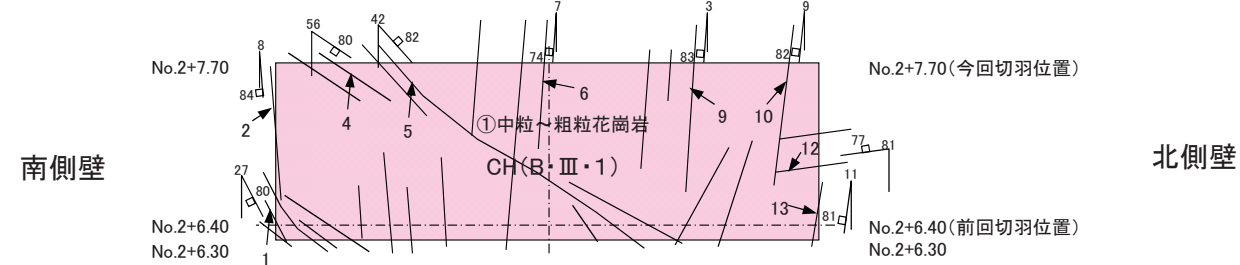
A3-請負-計測工(地質)-091007

シート番号	400m予備 S17	日時	2009/10/7 2:10~3:10	位置・深度	400m予備ステージ17 G.L. -397.0 m~G.L. -400.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	------------------------	-------	---	--------	--

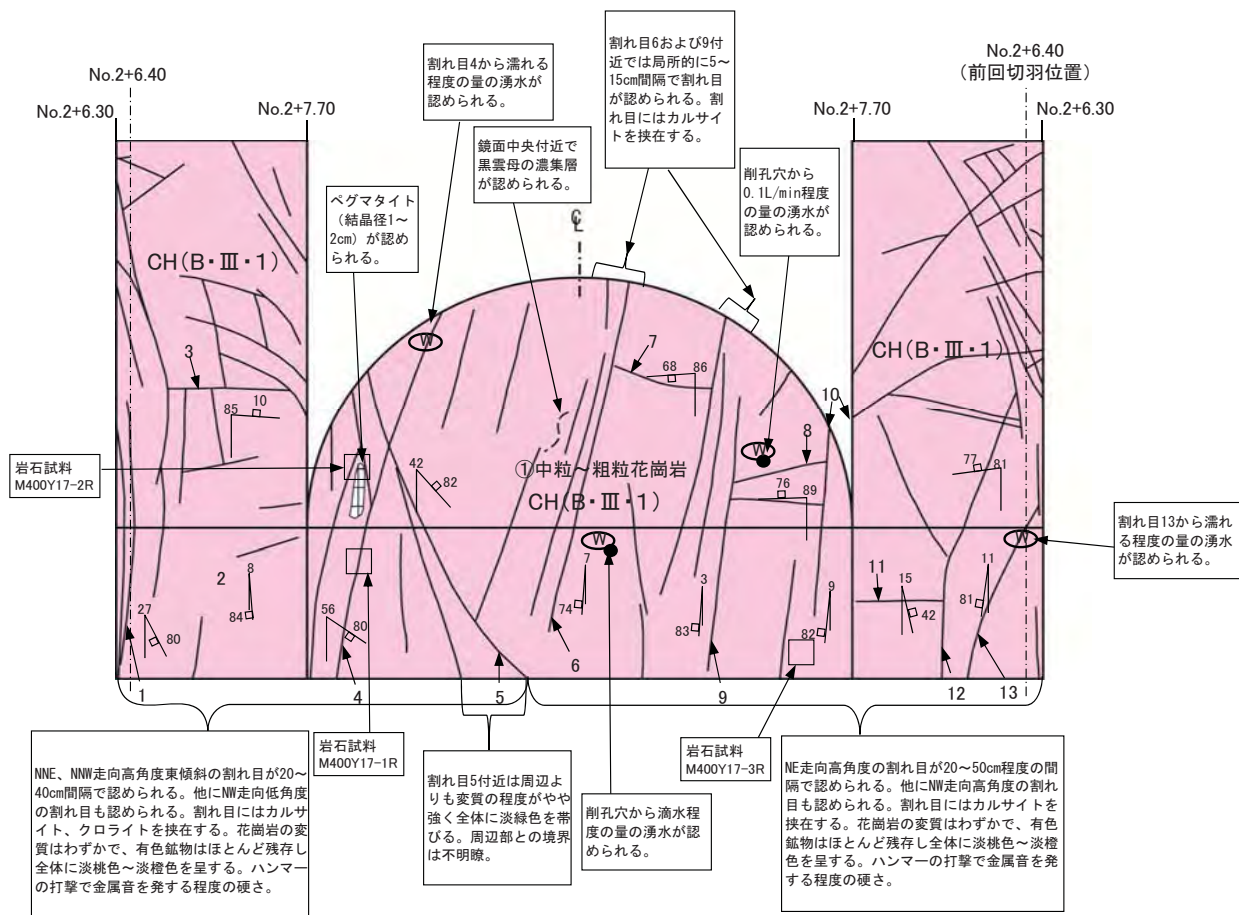
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

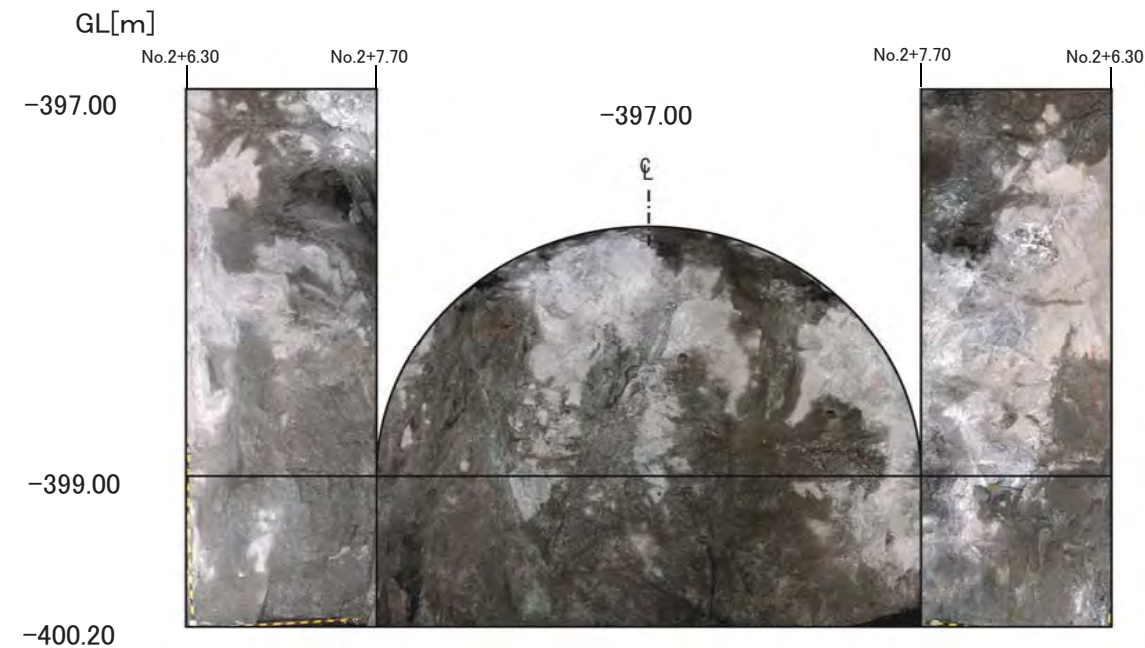
凡例 花崗岩 湧水 割れ目 黒雲母の濃集 ベグマタイト 岩級区分境界 割れ目の走向傾斜



スライス断面図



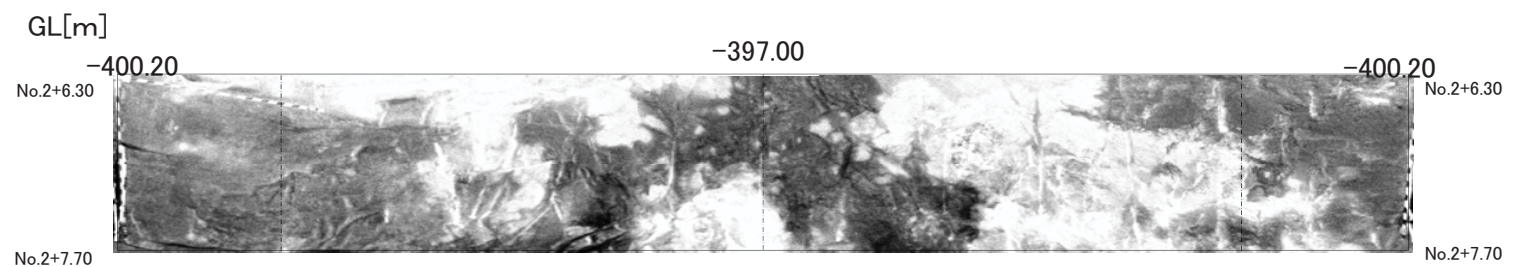
スケッチ



南側壁

可視画像

北側壁



南側壁

天端

北側壁

スキャナー画像

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -397m~-399m CH G.L. -399m~-400.2m CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡橙色、淡緑色)	RMR値	G.L. -397m~-399m 66 G.L. -399m~-400.2m 66
風化	α	岩石試料番号	M400Y17-1R (花崗岩)、M400Y17-2R (花崗岩、ベグマタイト)、M400Y17-3R (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所は予備ステージの横坑であり、掘進方向はS41W方向である。横坑観察は切羽から1.4m離れた場所より目視観察を実施した。  
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。鏡面左側では局所的にベグマタイト(結晶径1~2cm)が認められる。  
花崗岩の変質はわずかで、黒雲母などの有色鉱物は概ね残存しており、全体に淡桃色~淡橙色を呈する。割れ目5付近ではやや淡緑色を帯びる。  
割れ目は鏡面左側から南側壁ではNNE、NNW走向高角度が主体で、20~40cm間隔で認められる。他にNW走向低角度の割れ目が認められる。鏡面中央から右側と北側壁ではNE走向高角度の割れ目が20~50cm間隔で認められる。他にNW走向高角度の割れ目が認められる。  
割れ目はカルサイトを挟むものも多く、鏡面左側の一部ではクロライトを挟む割れ目も認められる。

湧水は割れ目4、13から濡れる程度の量が認められた。また、鏡面の掘削穴から最大0.1L/minの湧水が認められた。  
岩級区分は、全体に割れ目間隔が概ね20~50cm程度で、ハンマーの打撃で少し濡った音~金属音を出さず程度であることからCH(B・Ⅲ・1)級と評価した。



# A工区地質記載シート

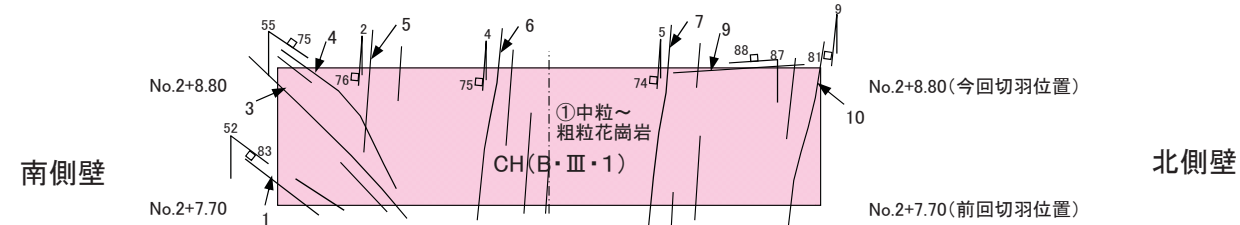
A3-請負-計測工(地質)-091008

シート番号	400m予備 S18	日時	2009/10/8 2:50~3:50	位置・深度	400m予備ステージ18 G.L. -397.0 m~G.L. -400.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	------------------------	-------	---	--------	--

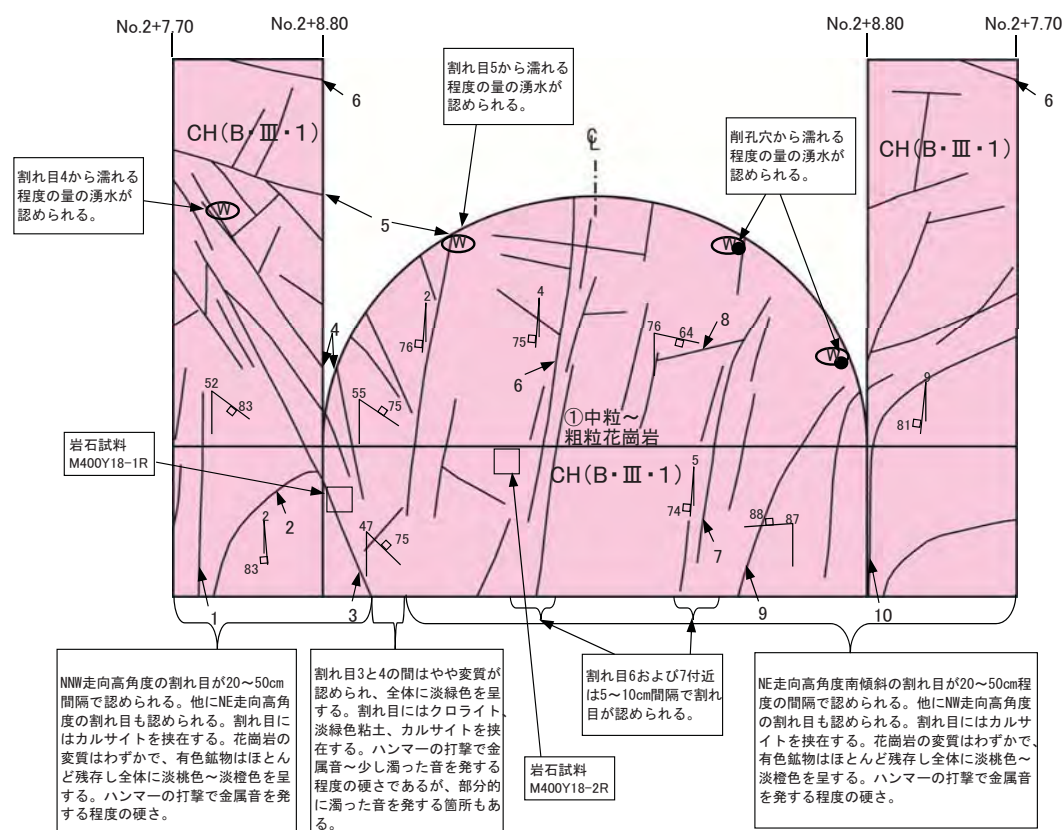
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

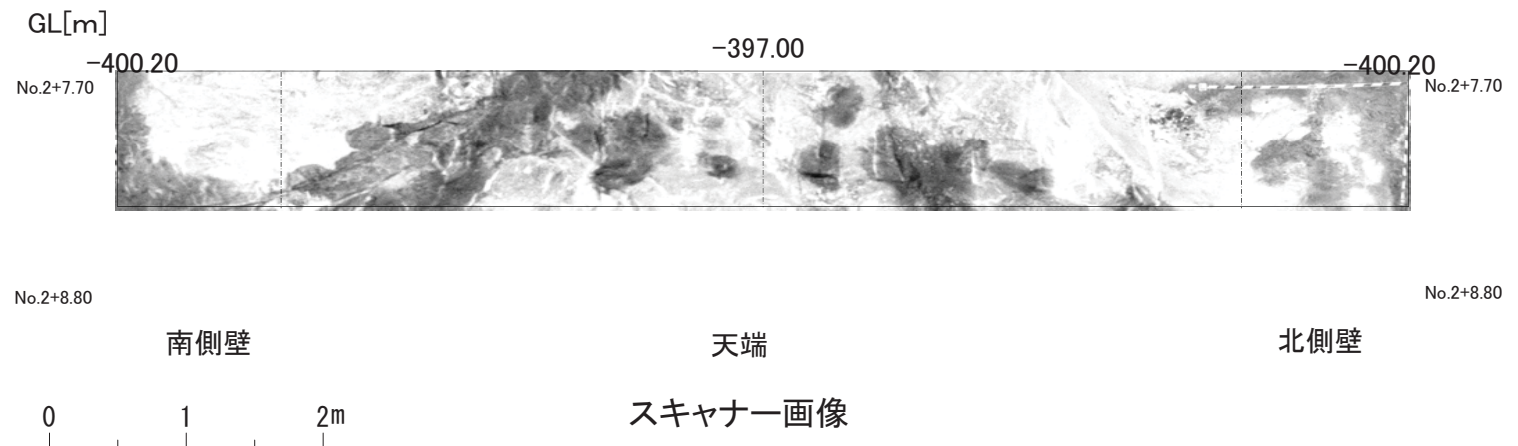
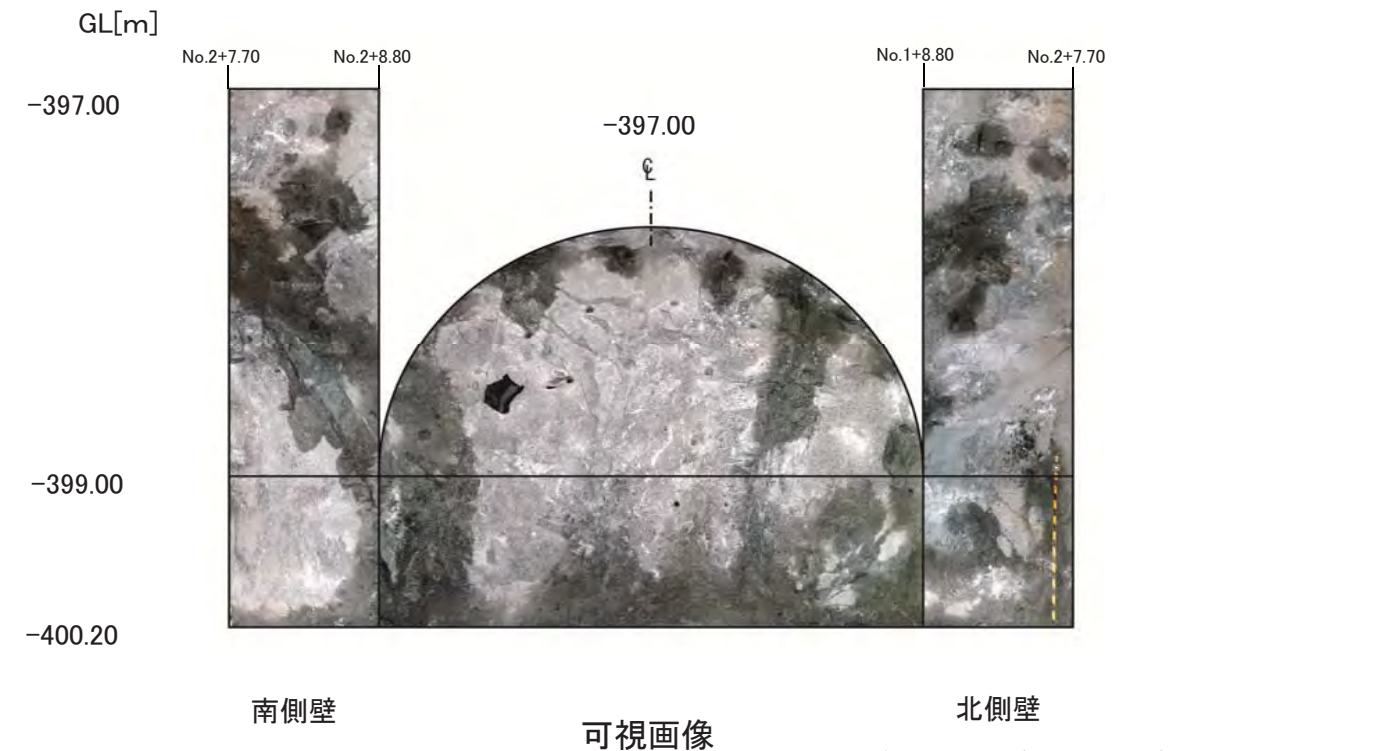
凡例 花崗岩 湧水 割れ目 岩級区分境界 割れ目の走向傾斜



スライス断面図



スケッチ



岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -397m~-399m CH G.L. -399m~-400.2m CH
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡桃色、淡橙色、淡緑色)	RMR値	G.L. -397m~-399m 66 G.L. -399m~-400.2m 69
風化	α	岩石試料番号	M400Y18-1R (花崗岩)、M400Y18-2R (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	濡れる程度		

**特記事項**

当箇所は予備ステージの横坑であり、掘進方向はS41W方向である。横坑観察は切羽から1.1m離れた場所より目視観察を実施した。  
 岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。  
 花崗岩は変質はわずかで、黒雲母などの有色鉱物は概ね残存しており、全体に淡桃色～淡橙色を呈する。鏡面左側から南側壁にかけての割れ目3と4の間ではやや変質しており、全体に淡緑色を帯びる。  
 割れ目は鏡面左側から南側壁ではNNW走向高角度が主体で、20~50cm間隔で認められ、他にNE走向高角度の割れ目も認められる。鏡面中央から右側および北側壁ではNE走向高角度の割れ目が20~50cm間隔で認められ、他にNNW走向高角度の割れ目も認められる。  
 割れ目はカルサイトを挟むものが多く、一部ではクロライト、淡緑色粘土を挟む割れ目も認められる。

湧水は割れ目4、5から濡れる程度の量が認められた。また、鏡面右上側の2箇所の削孔穴から濡れる程度の湧水が認められた。  
 岩級区分は、全体に割れ目間隔が概ね20~50cm程度で、ハンマーの打撃で少し濡った音～金属音を出す程度であることからCH(B・Ⅲ・1)級と評価した。



# A工区地質記載シート

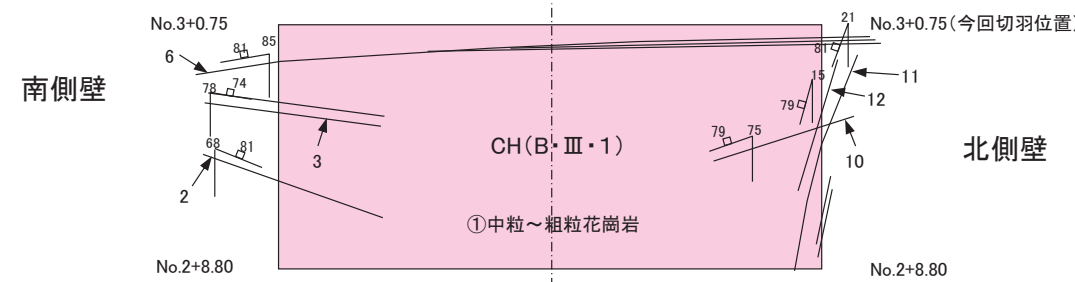
A3-請負-計測工(地質)-091020

シート番号	400m予備 S19	日時	2009/10/20 9:30~10:30	位置・深度	400m予備ステージ19 G.L. -397.0 m~G.L. -400.2 m	観察・撮影者	
-------	---------------	----	--------------------------	-------	---	--------	--

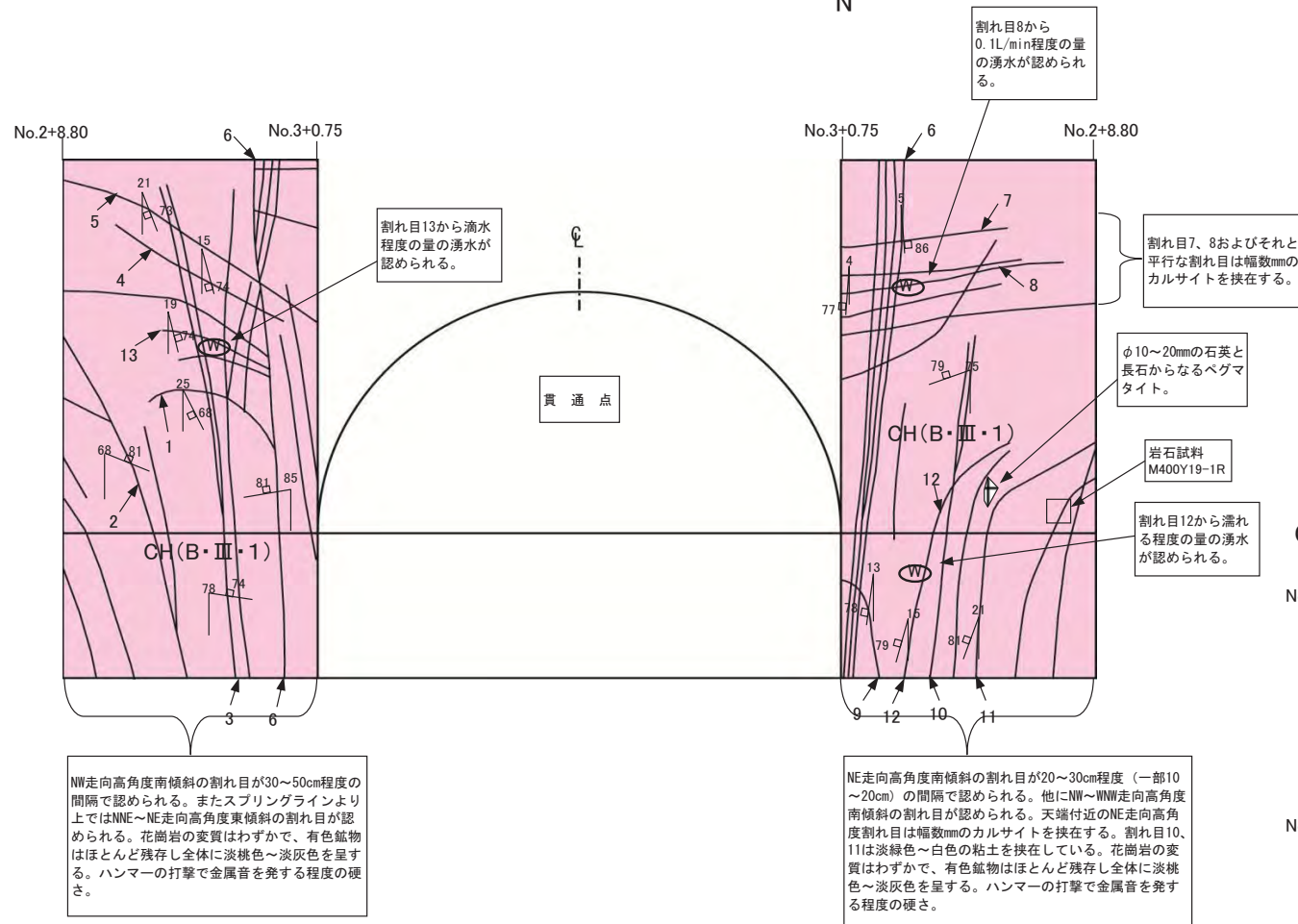
総括監督員	主任監督員	監督員

請負人 大林・大成・間特定建設工事共同企業体  
現場代理人

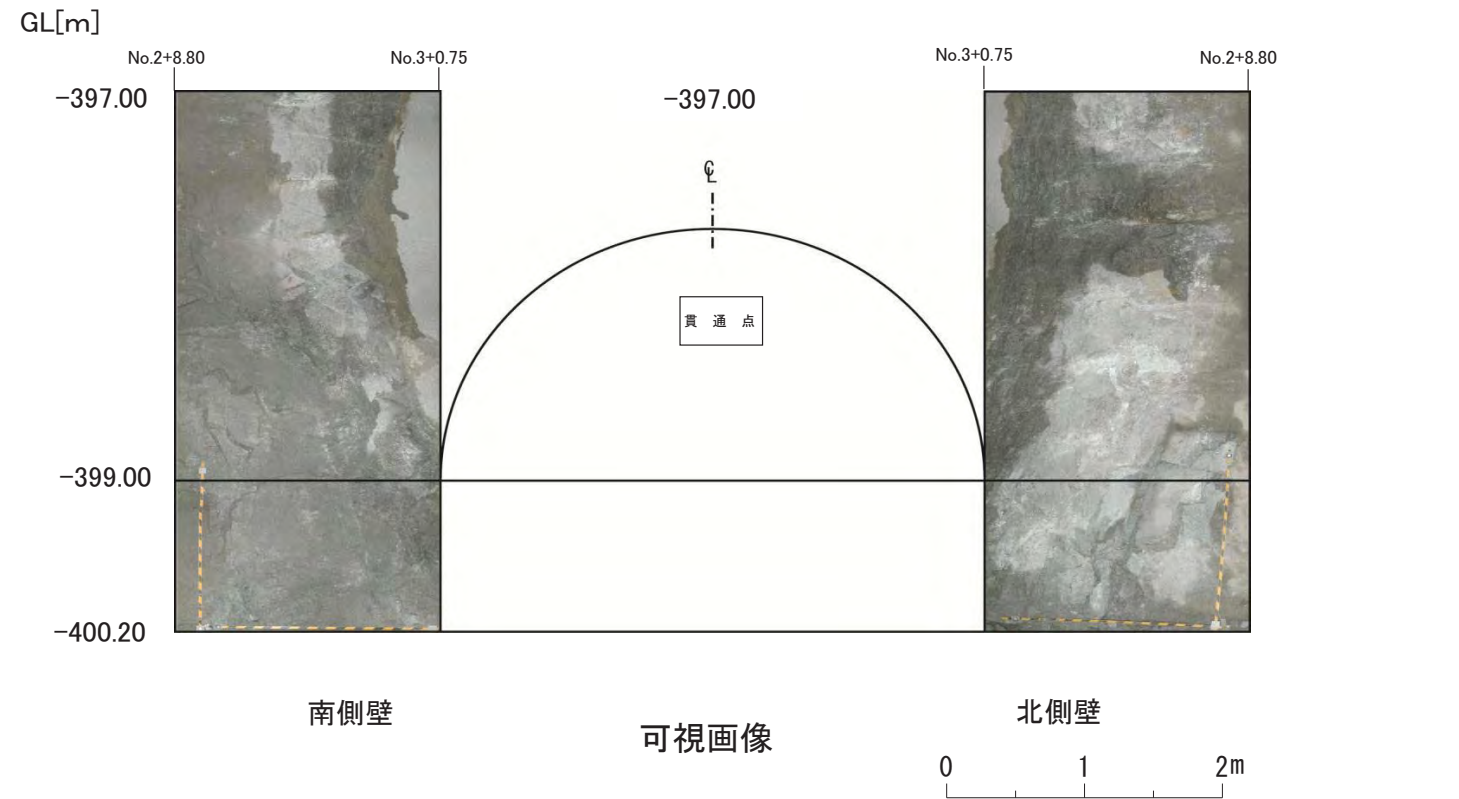
凡例	花崗岩	湧水	割れ目	岩級区分境界	70°	割れ目の走向傾斜	ペグマタイト
----	-----	----	-----	--------	-----	----------	--------



スライス断面図



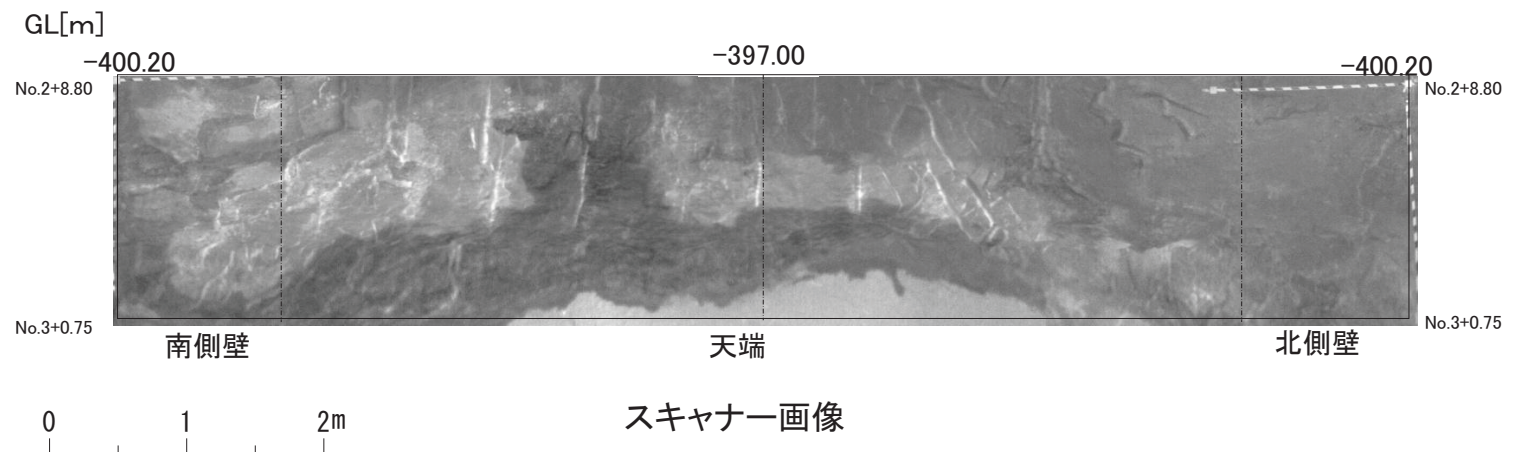
スケッチ



南側壁

可視画像

北側壁



南側壁

スキャナー画像

北側壁

岩種	花崗岩	電研式岩級	G.L. -397m~-399m CH G.L. -399m~-400.2m CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡灰色)	RMR値	G.L. -397m~-399m 63 G.L. -399m~-400.2m 61
風化	α	岩石試料番号	M400Y19-1 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	0.1L/min程度		

特記事項

当箇所は予備ステージの横坑であり、掘進方向はS41W方向である。横坑観察は切羽から1.9m離れた場所より目視観察を実施した。  
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~10mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。  
花崗岩の変質はわずかで、黒雲母などの有色鉱物は概ね残存している。カリ長石は淡桃色を呈しており、花崗岩は全体に淡桃色~淡灰色である。  
割れ目は、NE走向高角度の割れ目が20~30cm間隔(一部10~20cm間隔)で認められ、NW走向高角度の割れ目が30~50cm間隔で認められる。割れ目はカルサイトを挟むものも多く、天端付近の割れ目7、8では幅数mmのカルサイトを挟んでいる。一部ではクロライト、淡緑色~白色の粘土を挟む割れ目も認められる。  
北側壁ではφ10~20mm程度の石英や長石からなるペグマタイトが認められた。

湧水は割れ目8から0.1L/min程度の量、12から濡れる程度の量、割れ目13から滴水程度の量が認められた。  
岩級区分は、全体に割れ目間隔が概ね20~50cm程度で、ハンマーの打撃で金属音を出す程度であることからCH(B・Ⅲ・1)級と評価した。